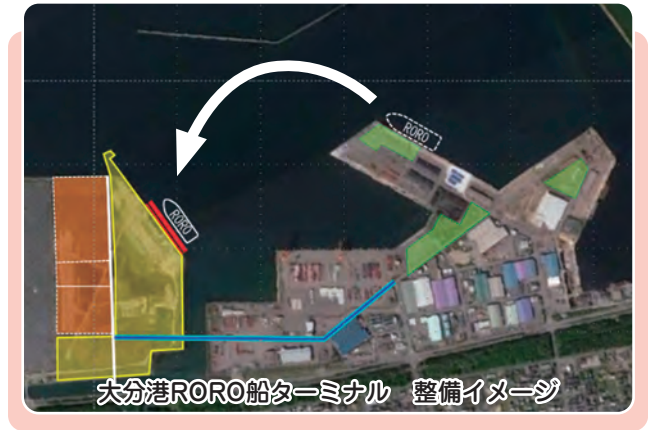


# 技術士だより・九州

公益社団法人 日本技術士会九州本部 秋季号<第145号> (令和7年10月15日発行)



## 九州の東の玄関口としての機能強化（今年度は二つの港湾施設が供用開始！）

大分県では、九州の東の玄関口として港湾機能の強化に取り組んでいます。今年度は5月に二つの港湾で新ターミナルの供用を開始しました。

一つ目は、白杵港（下り松地区）新フェリーターミナルです。四国航路フェリーが1日14便の過密ダイヤで運航し、泊地や航路が狭く様々な船舶が輻輳していたため、水深5.5mの耐震強化岸壁を整備しターミナルを移転しました。あわせて、背後には2.3ヘクタールの緑地を整備し、大規模災害時の緊急物資輸送の拠点としての機能を高めました。二つ目は、大分港（大在西地区）RORO船ターミナルです。取扱シャーシ台数の増加と船舶の大型化に対応するため、水深9mの耐震強化岸壁を整備するとともに、不足・点在していたシャーシ置場を集約するため、岸壁背後に14ヘクタールのふ頭用地を整備しました。また、DX技術を活用した受付の無人化や駐車位置の管理システムを導入し荷役作業の効率化を図りました。

今後も、利用者から「選ばれる港」を目指し、県内の港湾機能強化に努めてまいります。

あきつき ひろあき  
 秋月 宏昭（建設、総合技術監理・大分）

## 目次

巻頭言	1	委員会・部会報告	12
私の提言	2	支部だより	18
声の広場	3	CPD報告	20
若手技術士の声	5	技術情報	21
土木遺産シリーズ(41)	6	技術士全国大会(熊本)	23
ミニ特集	7	表彰受賞・お知らせ・ご案内	25
修習技術者の声	9	会員ニュース	26
中央・統括本部情勢	10	協賛団体会員	27

# 命や暮らしを守る災害に強い 県土づくりに向けて

宮崎県 県土整備部長 くわはた 桑畑 まさと 正仁



宮崎県は、全国有数の豪雨地帯であり、毎年のように浸水被害や土砂災害に見舞われております。近年の地球温暖化の影響による災害の激甚化に加え、南海トラフ地震による甚大な被害が想定されており、これらの災害に備えた防災・減災対策の充実が喫緊の課題となっております。

このため、本県では「宮崎県総合計画2023」や「宮崎県国土強靱化地域計画」に基づき、高速道路をはじめとする道路網の整備や港湾機能の強化など、交通・物流ネットワークの充実に取り組みとともに、防災・減災対策を強力に推し進め、災害に強いみやざきづくりを推進しているところです。

高規格道路については、県内を南北に縦断する東九州自動車道において、唯一の未事業化区間であった「南郷～奈留」間が令和6年4月に新規事業化され、全線開通に向けて大きく前進することを大変喜ばしく思っております。また、4車線化事業として、令和3年3月に事業化された「高鍋～西都」間の一部を含む2区間で整備が着実に進んでいます。九州中央自動車道においては、令和3年8月に「日之影深角～平底」間が開通したほか、現在、高千穂町及び五ヶ瀬町内の区間で事業が進められており、着実に整備が進んでおります。

都城志布志道路については、令和7年3月に全線開通し、「都城IC～志布志港」までが信頼性の高い一本の道路で結ばれたことで、「経済」「医療」「防災」に大きな効果が期待されます。

河川・砂防事業においては、浸水被害が多発している河川での流域治水対策を進めるとともに、人家や公共施設等に被害を及ぼす恐れが大きい地区で、ハード・ソフト一体となった土砂災害防止対策を推進しています。

港湾は、地域の産業や経済を支え、企業立地や雇用創出に寄与する物流の拠点であるとともに、クルーズ船の寄港など観光面でも重要な役割を担っています。細島港では、水深9mの19号岸壁や粘り強い防波堤、宮崎港では航路維持を目的とした防砂堤の整備、油津港では、大型船に対応する第10岸壁の延伸や西沖防波堤の整備を進めるなど、機能強化や物流コストの低減、安全性・利便性の向上に取り組んでいます。

このような中、産業界全体で人手不足が顕在化しておりますが、特に建設産業は、インフラの整備はもとより、災害時には最前線で復旧作業を担うなど、極めて重要な役割を果たしています。その担い手確保は、県土の未来にとって最重要課題の一つです。このため、建設産業がより魅力ある産業となるよう、関係団体とも連携しながら、働き方改革や生産性向上への支援に積極的に取り組んでいるところです。これらの取り組みでより良い成果を得るため、引き続き、技術士会の皆様の培われた技術力とご経験を発揮していただきますよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本県では、「3つの日本一挑戦プロジェクト」に新たに取り組んでおります。このうち、「スポーツ観光プロジェクト」では、プロチームのキャンプ数全国1位を目指し、ハード整備などを通じて県内全域のスポーツ環境をこれまで以上に充実を図ることとしております。令和9年には、第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会の開催を予定しており、これらの大会に向けて整備した陸上競技場、プール、体育館といった大型施設を大会後も有効活用し、本県の更なる魅力向上につなげていきたいと考えています。

また、本県は、昭和44年に全国に先駆けて「沿道修景美化条例」を制定し、花と緑にあふれた沿道の景観を創造するなど、豊かな自然を活かした美しい郷土づくりに取り組んできました。この取り組みを沿道のみならず県内全域に広げていくため、平成29年に「美しい宮崎づくり推進条例」を制定し、県民とともに愛着と誇りを持てる郷土を創り、未来へ引き継いでいく取り組みを進めています。

機会がございましたら、ぜひ、宮崎にお越しいただき、「スポーツランドみやざき」、「美しい宮崎」を実感してください。そして、温暖な気候が生み出す豊かな食、天孫降臨ゆかりの歴史・文化を心ゆくまでお楽しみいただければ幸いです。

# 倫理教育の必要性和資格の位置づけは

いさみ ひでただ  
**勇 秀忠**  
(建設・熊本)



### 1. はじめに

社会には様々な士業と呼ばれるある意味その業界の専門家が存在する。公認会計士、弁護士、司法書士、税理士、技術士等々。これらは国家資格に位置する。高専2校では、授業コマの最初に「技術士の概要及び実務内容」を30分ほど説明している。以下、その内容に少し触れ、社会に必要な倫理教育と資格の位置づけについて述べたい。

### 2. 社会に必要な倫理教育

「技術士制度」の誕生は、第二次世界大戦後、荒廃した日本の復興に尽力し、世界平和に貢献するため、「社会的責任をもって活動できる権威ある技術者」が必要となり、米国のコンサルティングエンジニア制度を参考に「技術士」の制定により（昭和32（1957）年5月20日）に創設されている。

ちなみに私が生まれた昭和33（1958）年7月に第1回技術士試験が実施されている。日本技術士会が昭和26（1951）年6月に設立。その10年後の昭和36（1961）年に「技術士業務倫理要綱」という名称で倫理綱領を定めている。その後、平成11年、平成23年、令和5年の理事会変更承認となり現在に至っている。

平成19（2007）年1月には「技術士プロフェッション宣言」を行い、「技術士の基本としてのあるべき姿」（行動原則）を示し、平成23（2011）年に、「技術士倫理要綱」は「技術士倫理綱領」へと改定されている。さて、ガバナンス（組織統治）という言葉は、地方自治も含め多くの組織形態に当てはまるものであり、多様な組織形態における管理体制の構築を意味する。法律を作っても順守しなければ何の意味もないだろう。すなわち、法を順守しようという意識、あるいは、法は順守すべきものという「常識」がなくてはならない。同様に、倫理は「モラル」の意識に支えられ、人々に「意識」があって「規範」が順守されるものだ。法は社会規範としては不十分である。

それは、①法の適用条件は厳格であること、②人間は法による強制から逃避しがちなこと、③法による制裁は後追いであることで、①は法的責任を免れ、法の網から漏れるという空白部分が生じる。②は法による制裁を逃れさえすればよいという消極的な対応

応になりがちで、積極と消極の差が法の空白部分になる。③は多額の損害賠償を得ても失われた生命は戻らず、失われた健康はしばしば回復不能であり、人の権利の観点から、そこに法の空白部分がある。

これらの空白を、それぞれ人の自律である倫理が埋めることになる。となると社会に必要な一つに倫理教育があり、多くの教育機関や産業界での倫理教育への取り組みは重要に他ならない。

次に、NHKの番組で「弁護士の着手金詐欺」について放送していた。多くの被害者はやり切れない思いだろう。弁護士は法の専門家であり、信頼の上にその立場があろう。国家資格には、業務独占資格、名称独占資格、必置資格、登録制度など多種に及ぶ。例えば、弁護士は業務独占資格であり「特定の業務に際して、特定の資格を取得しているもののみが従事可能で、資格がなければ、その業務を行うことが禁止されている」。技術士資格は名称独占資格であり「資格取得者以外の者にその資格の呼称の利用が法令で禁止されている資格で業務独占性の無いものを指す」。技術者倫理の必須科目を担当しているが、法律は作ってしまえば問題ないのではなく、まずは順守しなければ論外であり、法を順守しようという意識、あるいは、法は順守すべきものという「常識」がなくてはならない他律的な規範である。一方、倫理は「モラル」の意識に支えられ、人々の「意識」があって「規範」が順守される自律的な規範である。

あえて、法には法の適用条件の厳格性、法による制裁は後追いであるなど先に述べた空白部分が生じる。その空白部分を埋めるのが人の自律である倫理である。番組の最後に出演弁護士の方が倫理の大切さをコメントされていた。「お天道様がみている」を根幹に据え、倫理教育はすべての産業界に必要なものである。

### 3. おわりに

技術士資格は業務独占資格ではないが、その位置づけは技術者として、人として問われる最高の資格に相違ない。資格に恥じないように、これからも倫理教育を自らも成長の糧に、前向きに精進していきたいと思う。

株式会社ウラタ・シビル・コンサルタント  
(E-mail : h-isami@urata-cc.jp)

## 川が川をつくり 人が川をつくる

まつき ひろただ  
松木 洋忠

(建設、総合技術監理・北九州)



技術士事務所を開設してから一年となりました。それまで建設行政に携わり、多くの現場経験をしました。赴任先は北から順に新潟・つくば・東京・姫路・高知・直方・福岡・久留米・名護、そしてベトナムとラオスです。さまざまな川に触れ、川には同じものがないことを学びました。その中から「川が川をつくる」と「人が川をつくる」という体験、そして考えている「川づくりの技術」を紹介します。

### ①「川が川をつくる」

3年間のJICA専門家としてラオスで働きました。ラオスには雨季と乾季があり、メコン川の水位差は10mに達します。その河岸侵食対策が仕事でした。現地を確認しましたが、崩壊の繰り返しで10mの崖が3kmほど続き、集落の土地の半分が失われたとのこと。何らかの対策はしなければ、しかし何をすればよいのか。相談できる人はおらず、技術基準などなく、鉄・コンクリート・竹木といった材料もないという条件でした。

そのとき頭の中にあったのは、「川が川をつくる」という師匠の言葉です。メコン川の侵食も対策も、メコン川に教えてもらうよりほかありません。比較的安定している河岸を探し、その特徴を観察しました。一方で、現場周辺を走り回って、対策工事に使える材料として花崗岩の山を見つけました。

これらを組み合わせ、日本の伝統河川技術を参考にして、設計したのが石積みの連続水制工です。高さは水位変動の半分、長さは人力施工できるところまで、設置間隔は100m。現地での材料調達と施工能力で決めたので、力学的な最適値かどうかはわかりません。見直しと修正を前提に工事を始めました。

これにメコン川が応えました。河岸を安定したものに造り替えてくれました。水制の間の流速が落ちることで、雨季に川が運ぶ土砂が堆積し、乾季には押え盛土として崖の崩落を止めます。さらに石積みの隙間からヤナギが育ち、水制効果を年々高めます。自然の営力を借りることで、持続性の高い河岸侵食対策となりました。

### ②「人が川をつくる」

遠賀川の河川事務所では、得難い経験をしました。直方市役所の前の護岸を緩傾斜河岸に造り替えた工事です。治水上の目的は河積を大きくして流下能力を高めることですが、その利用方法や維持管理に市民の夢が練り込まれています。

これを可能にしたのは地域の住民団体の活動です。住民を中心にした川づくりの話し合いが、工事の10年前から行われていました。「50年後の遠賀川はこんな姿にしたい!」という想いを「夢プラン」と名づけた構想図に描き込んで、市民に公開し、意見を募って描き加える。当時の直線的な複断面の川を眺めながら、そんな対話が続けられていました。そこに水害が起こり、緊急対策事業が始まったのです。

事業に着手したとき、すでに河川の将来像、空間の使い方や管理方法などの検討が進んでいました。さらに市民協議会で議論を通じて、地域の想いを具体的な形にしていきます。設計・施工は公共事業ですが、それは「夢プラン」の内容をカタチにしていくな作業です。地域住民と直方市役所と河川事務所の絶妙な三角関係で、できることを相互に補完しながら川づくりを進めました。

河川工事は災害をきっかけに始まることが多くなっています。発災後の極めて短い時間で、地域の合意形成や自然環境への配慮などをしなくてはなりません。直方での川づくりは、地域の「人が川をつくる」方策として、ひとつの現実的な事例になったと考えています。

### ③「川づくりの技術」

海外の土木現場は、日本の条件や常識が通じないということ、同時に日本の川の特異性を教えてくれました。遠賀川の人たちは、住民の地域愛が川をより好くしていくという実例を見せてくれました。

河川に関わる技術は特異です。水と土といきものの移動という自然科学的な要素に加え、暮らしや生業を支えるという人文・社会学の視点が必要です。地域の過去の歴史を踏まえて、川は流れています。現在の川づくりは、将来世代の自然環境や社会環境を形成していきます。

技術士として、こんな「川づくりの技術」を勉強しています。成果を発信し、地域社会に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

所属：松木技術士事務所  
(E-mail: matuski84@gmail.com)

## 育てる

ぬまち えいじ  
沼地 英二  
(建設・熊本)



### 1. はじめに

「育てる」とは、広辞苑（第七版）で調べると、

- (1) 大きくなるようにする。成長させる。養育する。
- (2) 発展させる。はぐくむ。
- (3) 一人前になるように教え導く。力をつけさせる。
- (4) おだてる。煽動する。

と掲載されている。

(1)の「育てる」は、動物や植物など、生き物が大きく成長するように世話をするという意味である。

(2)の「育てる」は、会社や組織を発展させる、次第に大きくなるようにするという意味である。

(3)の「育てる」は、後継者や弟子を一人前になるように、能力や資質を伸ばすように教え導く意味である。

### 2. 動植物を育てる

動物の場合は、食事・運動・排泄物の世話など手をかけて養えば、大きく成長して心の癒しとなり、家族の一員同様となる。植物の場合は、手をかけて管理（水やり・温度・施肥・病気対策・鳥獣害対策など）を適切に行えば、実りや花として実感できる。動物も植物も愛情をかけて、世話し養育すればするほど大きく「育てる」ことができる。

### 3. 後継者を育てる

(1)の「育てる」とは異なり、教える、指導するなど、長い時間が必要となる。例えば、伝統芸能や職人の技術・ワザは、師匠や先輩が技術やワザを見せることで、「盗む」「まねる」ことで自分自身のものにする。あるいは、師弟関係を基に厳しい指導を行い、伝統の「技術」や「わざ」を引き継ぎ将来へ繋げている。

また現在は、伝統や技術が途絶えないように「教える」ことを積極的に実施して、「継承」されるような取り組みも行われている。

### 4. 会社や組織を育てる

会社や組織において、後継者を「育てる」ことは対象者が複数人となり難しくなる。個人個人のこれまでの経験、学んだ学問、年齢、職歴などが異なるため、能力と技術に個人差があり、一人一人のスキ

ルアップが課題となるからだ。若い人達に研修会や講習会を受講させること、社内勉強会で学習させることでスキルアップを図り、資格取得へチャレンジさせる。

この社内勉強会での指導はむずかしい。指導内容を高く設定すれば、内容が理解できずに意欲を失う可能性が出る（勉強会に参加しなくなる）。低い内容にすれば、高い者は教わる必要性が低くなる（勉強会に参加する必要性がなくなる）。こうなれば、勉強会は時間の経過と共に元気が無くなってしまう。

動物植物は、手間を掛けて世話すれば「育てる」ことはある程度可能である。しかし、人は異なる。子供は、愛情を持ち養育すれば成長する。しかし、年齢が増え大きくなるに伴い、個人の考えが形成されるようになれば、教える側の指導をすなおに取り入れれないようになることがある。このようなとき、強制的に強要すれば、どこかの時点でひずみが出て、甘くなれば追従する傾向が多い。

私は定年退職後、再就職した現職場において社員の技術力レベルアップを目的とした勉強会の講師を務めた経験がある。土木知識を向上させることにより、資格試験取得のための勉強会である。平成29年から令和2年（新型コロナウイルスが発生流行）まで4年間続けた。1年目は過去問題をひたすら繰り返し解く過去問題実践方式、2年目は過去の頻度が多い問題を解説する解説方式、3年目は実践方式と解説方式を合体させた統合方式、4年目は事前に出題した問題を予習してもらい、回答し質問を受ける予習方式で勉強会を行った。それぞれに良い点、悪い点があり残念なことであるが、全員が合格するまでには至らなかった。現在は私の跡を引き継いだ後任が、勉強会を担当して後継者を育て、会社を「育てる」ことに取り組んでいる。

### 5. 終わりに

「人に教えること」、「人を指導すること」、「後継者を育てること」は、非常に難しい。会社や組織において、技術者の後継者を「育てる」ことは、簡単に短時間で出来るようなことではない。

指導する者は、気長に時間をかけて関心を持たせ意欲が高まるような指導法が一番ではないか。そして指導を受ける者は、時間をかけてコツコツと努力し知識と経験を積み重ねることが重要と今は思う。

機会があれば、再チャレンジしたいと考えている。

所属：旭測量設計株式会社

(E-mail : numachi@asahi-sk.com)

### 技術士取得と意識の変化

えびす ゆうた  
蛭子 雄太  
(森林・佐賀)



#### 1. はじめに

私は大学院で植物生理学を学んだ後、30歳から佐賀県林業試験場に3年間勤務しました。その後、平成29年より現職の建設コンサルタント会社に勤務しており、現在で9年目になります。専門は森林土木で、平時は主に治山や林道設計を担当していますが、災害発生時には公共災害や農業災害の復旧設計業務にも従事しております。

今回、このような機会をいただき、技術士取得までの過程と取得後の意識の変化について整理してご報告いたします。

#### 2. 技術士取得までの道のり

私が「技術士」という資格を意識したきっかけは、転職時に前職の上司（技術士）から「技術士を目指すように」と助言をいただいたことです。転職後1年目には技術士補を取得し、令和5年度の二次試験に初挑戦し、幸運にも合格することができました。

二次試験に向けた学習は、技術士補取得後に過去問題集や市販の対策書を用いて開始しましたが、当初は実務経験や知識が不足しており、専門的応用力や問題解決力を計る筆記試験には歯が立ちませんでした。そのため、まず日常業務を着実にこなし、経験を積むことを優先いたしました。

その後、改めて過去問題や対策書に向き合いましたが、合格への道筋を明確に描けなかったため、自学だけの合格は困難であると判断しました。

そこで、佐賀県のNPOが主催する「PE道場」に参加し、月2回の論文添削指導を受けることで、学習の方向性を確立することができました。PE道場では、自身の専門分野以外の講師や受講生との議論を通じて、多角的な視点を身につけることができました。

筆記試験においては、幸いにもPE道場での添削指導を受けたテーマや、実務で経験した事例が出題されたため、記述することができました。

また、口頭試験前には講師および社内の先輩技術士から手厚い指導を受けたことで、落ち着いて受験に臨むことができました。

#### 3. 技術士になってからの意識

技術士取得後1年半が経過した現在でも、技術者として学ぶべき課題は多いと感じております。日々の業務において、技術士に求められるコンピテンシーを発揮できるよう努めていますが、当然ながら熟練技術者の水準には及ばず、実践方法について模索を続けています。その中で、技術士法に規定された「技術士の資質向上の責務」の重要性を、取得前よりも強く意識するようになりました。

#### 4. 今後取り組みたいこと

今後も、地域社会への貢献を主眼に置き、地元建設コンサルタントとして佐賀県内のインフラ整備・維持管理および災害復旧に携わりたいと考えております。近年、毎年のように九州各地で豪雨災害が発生しており、佐賀県は何度も激甚災害を経験いたしました。豪雨災害では、河川、道路、農地、林道などの施設が被災し、迅速かつ適切な復旧が求められます。そのため、施設管理者や地元住民とのコミュニケーションやマネジメントが必要です。

私は、佐賀県のコンサルタントとして、地域の特性（脊振山系の花崗岩まさ土の崩壊や佐賀市低平地における有明粘土の長期沈下等）をもっと理解し、地域に貢献していきたいです。そのためには、先輩技術者と現場に赴き五感で感じる経験を積み重ねるOJTに加え、学会や講習会などに積極的に参加して、体系的に知識を深めていきたいと思っております。

また、私は林業試験場に勤務していた経験から、土木分野における木材利用の取り組みも進めていきたいと考えております。佐賀県では、間伐材を丸太筋工や農業用水路（クリーク）の護岸などに利用しています。今後はさらなる木材活用や既存施設の維持管理などを通じ、資源循環型産業である林業に貢献してまいりたいと考えております。

#### 5. おわりに

佐賀に来て12年が経ちます。技術士の資格を取得できたのは、ひとえに多くの先輩方のご指導のおかげであり、心より感謝申し上げます。

これからも若手(?)技術者として目標を高く設定し、技術の研鑽に努めるとともに、ひとつひとつの業務を誠実にこなし、地域社会への貢献に尽力してまいります。

所属：朝日テクノ株式会社  
(E-mail : ebisu@asahi-tc.jp)

## 70歳になった「私」と 国指定重要文化財「西海橋」

しみず まさあき  
**清水 正明**  
(建設、上下水道、総合技術監理・長崎)



### 1. はじめに

西海橋は、戦後間もない1950（昭和25）年に着工し、私が生まれた1955（昭和30）年に日本初の



写真-1 70歳になった「西海橋」

有料道路橋として完成した。橋長316m幅員8.2m架橋当時は、「東洋一のアーチ橋」と呼ばれ、私も地元生まれ、利用出来る者として、子供の頃から、本当に「誇らしく」思っていた。西彼杵半島北部は「魔の海峡」と呼ばれた伊ノ浦瀬戸により隔絶され、佐世保方面への交通手段は船であり、完成時には、「夢の懸け橋」として地域振興や観光振興に貢献した。



図-1 西彼杵半島と佐世保市を繋ぐ「西海橋」



写真-2 架設状況



写真-3 工事関係技術者

### 2. 「西海橋」と技術者

西海橋を設計したのは旧建設省の吉田巖氏で、東京大学工学部に在学中、卒業論文のテーマとして「針尾瀬戸に架けるアーチ橋の応力計算」を選んで、ほとんど手探りで、論文を書き上げた。この論文が旧建設省の目に留まり、採用されたとのことである。（写真-3の設計者に）

### 3. 世界初の架設工法

伊ノ浦瀬戸は、水深40m、最大潮流が9ノット（16.67km/h）と海中に支柱を設けることが出来ず、空中からのケーブル操作によって、両岸から突き出して組み立て、最後に両岸から伸びたアーチ主鋼を中央部で閉合させる突出式吊り出し工法が用いられた。（写真-2参照）

### 4. おわりに（初恋の人と西海橋での再会）

私は、高校入学時には、町営船で佐世保棧橋に上がり、市営バスに乗り継いで佐世保の高校に通っていた。通学時間、2時間以上と大変であった。

3年生になり、自動二輪の免許を取り、西海橋の東口まで私鉄バスが通っていたので、バイク→バスの通学となった。乗継ぎ通学を始めて1週間ほど、他の高校に通う同じ中学校卒の『初恋の人』と2年ぶりにバッタリ。彼女は、家族の送迎で東口からバス通学をしているとのこと。「何時に迎え来っとね」、「あと1時間西口で待たんば」、「ほんなら、俺がバイクで送って行くけん」。当時、後部座席の横乗りもヘルメットなしでも許されていたので西海橋を渡り彼女宅まで送って行った。数日後、私の近所に住む彼女と同じ高校に通う後輩が、手紙を渡しに来た。『家の前で、バイクからコロげ落ちればよかった。怪我すれば、清水君が、見舞いに来てくれるけん』-----何年か交際が続いたが、今、横にいる妻は、『彼女』ではない。あれから半世紀、西海橋は青春のいい思い出である。

出典-----「長崎県ホームページ（道路維持課）」

「Microsoft.Bing」

所属：高松設計コンサルタント株式会社  
(E-mail : natsc-se6@marble.ocn.ne.jp)

## 土との関わり

はらだ まさひろ  
**原田 昌宏**  
(建設、総合技術監理・福岡)



私は土木技術者として働く傍ら、親から引き継いだ農地で米や野菜づくりに日々汗を流しています。特に夏の草刈りは年を重ねるごとに体に堪えます。面積は小規模ながら、米づくりに関しては田植え、稲刈り、乾燥から保管まで自分の家族が食べる分はすべて自家で賄っており、残りはJAに出荷しています。

昨今、米の値段が上がったことが話題になっていますが、米やほとんどの野菜は自分で栽培しており、生活にはほとんど影響がありません。ただ私の周りを見ると、これまで農業をしてきた方々が高齢により離農後、後継者がいないため生産者が激減しており、いきなり増産と言っても簡単に安定して生産量を増やしていくのは難しいと感じています。

さて、土木技術者と農家は同じ土を扱いますが、それぞれ「土質工学」と「土壌学」の分野となり、目的やアプローチの仕方が大きく異なります。

土質工学における「土」は力学的特性や挙動について工学的見地から解析し、安全かつ合理的に構造物を設計・施工するための対象です。対して土壌学における「土」は土壌の肥沃度など農業における土壌の性質を理解し、農業の生産性を向上させるための対象です。つまり、同じ「土」でもそれぞれ要求される事項について異なる性質が求められています。

作物の栽培に適した土づくりのためには、施肥や耕運が重要な作業です。しかしながら、そのことが土質工学的にはあまり意味がなく、力学的特性に反する行為になると思いつつも、天地の恵みにより米や野菜の収穫がもたらされることにとっても感謝しています。

日本の国土は急峻な地形、軟弱な沖積層、地震や豪雨・豪雪などの自然条件など、土木技術者に厳しい要求が課せられますが、その代わりに豊かな自然がもたらす恵みにより、私たちは古より豊かな生活を送ることができています。

今後も土木技術者として、生活の質を上げるための社会資本の整備に携わるとともに、一方で農家として作物を栽培し、天地の恵みをいただくという二足の草鞋の生活を楽しんでいきたいと思えます。

所属：株式会社西部技術コンサルタント  
(E-mail: eigyou@seibug.co.jp)

## 作業の効率化・省力化の現在地

ふくし ふみお  
**福士 文夫**  
(建設・北九州)



建設現場での人手不足が叫ばれて久しい昨今、自身が従事する鋼橋分野においても効率化・省力化に向けた取り組みが重要な課題となっています。その一環として、昨年度も自身が関係する鋼橋の架設現場において、効率化・省力化を図る複数の新技術を活用し、実地での効果の検証を行う機会が得られました。デスクワークが専らで現場に出る機会もなかなかないことから、短期間ながら徐々に現場の作業に携わることができ、自身にとっては良い勉強となりました。もっとも、現場作業員にとっては足手まといだったかもしれず、申し訳なかったと思えますが…。

日々、現場作業に従事されている方々が「当たり前」と思われている日常的な作業手法や手順に関して、作業性の改善や労務負荷の軽減化を目的とした新技術を実際に活用していただいたのですが、現場

の方の感想は自身が期待していたものとは違い、逆に「手間が掛かった」とか「施工や検知に漏れが多い」などの否定的な意見が多かった。筆者自身も、リリースされた新技術がパンフレットや技術資料で謳われた記載（キャッチフレーズ）とおりの効果を100%発揮できるとは考えていなかったが、ここまでネガティブな意見が多数寄せられるといったことは予想していなかった。現場作業の効率化や省力化を図る技術では、センサーやAI画像判定を活用したものが多く、これらは現時点においても未だ開発途上の要素技術である…という当たり前の現実を認識する結果となった。現場で日々作業されている方からすると、期待した効果が得られなかった技術は「日常作業の邪魔になる」と考えがちになることは致し方ないと思うが、それでは技術の改善や発展に繋がらないこともまた事実です。実際の施工で問題となった不具合の改善もさることながら、新しい技術をオールマイティーなものとは捉えず、適切な適用場面や箇所を見極めながら活用するという姿勢が、技術の発展に寄与するものと、今回の経験より今さらながら改めた認識した次第です。

日本鉄塔工業株式会社 営業第三部橋梁技術提案グループ  
(E-mail: f-fukushi@JSTeam.jp)

## 後進育成で社会貢献

いしせ しろう  
石瀬 史朗  
(機械・長崎)



私が技術士をめざす切っ掛けは、兄が技術士に合格し自慢げに話してくれたことでした。「公共工事で仕事をするには国が認めた技術士でないと駄目なんだ。」と、どや顔で話すのを見て（カッコいいな〜）と感じ俄然やる気が湧きました。

翌年の1次試験は1回で合格したものの2次試験は2回続けて失敗しました。その後長く海外業務になったことで遠ざかっていたのですが、職場の先輩が合格したと聞き再挑戦を決意。3度目は社外講師を仰いで背水の陣で挑み、合格することが出来ました。

私が携わる製造業では技術士資格が必要となる機会は少ないのですが、技術士になって改めて感じるのは、品質不正などを起こさない倫理観の醸成に加え、「安全・健康・福利を優先し説明責任を意識する」ことが自職場には特に重要と感じています。言

い換えると「技術者は技術を扱えるだけではダメで、技術を公共の安全と利益のために正しく使い、且つそれを一般の方にも分かりやすく説明できてこそ真の技術者である」の意識はまだ足りていません。

例えばトラブルが起きたら、急ぎ調査、原因分析、検証、対策を検討することに精一杯になり、お客様への説明では往々にして“自分が考えた結果と対策”を押し付けるような展開になりがちです。私自身も過去を振り返ると、お客様目線で説明ができていない場面があったなあと恥ずかしくなります。

そこで職場では若手に「独りよがりの説明ではダメ。自分のアウトプットを相手に理解してもらうために“伝わる”説明を意識せよ」と言って、聞く方は誰か？技術に詳しい人か？何が知りたいのか？時間配分は考えているか？を整理させ、聞く人の立場に立ち、理解いただきたい本筋を外さない説明を事前に練習するようアドバイスしています。

2025年から長崎県副支部長を拝命し、これまで以上にあまり縁のなかった部門の技術士の方々と接する機会が増えています。部門を越えた新たな知見や考え方に触れて更なる気づきを見つけ、後進にも伝えていきたいと思っています。

所属：三菱重工業株式会社長崎造船所  
(E-mail: shiro.ishise.na@mhi.com)

## 屋久島の山岳 トイレ事情

たけなか やすのり  
竹中 康進  
(環境・鹿児島)



世界遺産の地、屋久島に赴任して約2年半が過ぎましたが、屋久島の自然の美しさや奥深さに日々圧倒されながら、楽しんで生活しています。今回は、私の業務とも関係がある「屋久島の山岳トイレ事情」についてご紹介します。

屋久島には有名な縄文杉や百名山のひとつ宮之浦岳、その姿に威厳を感じる永田岳などを目的に多くの方が登山に訪れます。これらには長時間の登山や避難小屋での宿泊が伴うため、トイレが必要になります。以前は山岳部でのし尿は周辺に埋めていたようですが、登山者の増加や環境への影響から現在は行われておらず、登山道や避難小屋の周辺にはくみ取り式トイレ・バイオトイレ・土壌処理式トイレ・携帯トイレブースなどの様々なタイプのトイレが設置されています。

しかし、これら山岳部のトイレは屋久島の厳しい気象条件から頻繁に故障が生じたり、日々の維持管

理に多大な労力がかかっています。例えばくみ取り式トイレはし尿を人力で担いで登山口まで運搬しています。トイレの清掃やし尿運搬等にかかる費用は、登山者からの協力金（屋久島山岳部環境保全協力金）で賄われていますが、十分足りていないのが現状です。携帯トイレも積極的に活用されていますが、使用済携帯トイレの長時間の持ち運びへの抵抗などから使用率は低い傾向にあります。

これら屋久島の山岳トイレの課題を解決するために、行政や関係機関、ガイド事業者などで構成する屋久島山岳部保全利用協議会では令和7年3月『屋久島山岳部における今後のし尿処理適正化の方向性』を策定しました。屋久島山岳部のし尿処理の将来像や基本方針などを定めたほか、課題解決のための具体的な取組案として、避難小屋の有人化、ドローンなどを活用した新たなし尿運搬、より機動力のあるトロッコの管理・運用、屋久島のトイレの現状や利用に関する情報発信の促進、企業や大学等と連携した新たな処理技術を開発・試行などをとりまとめ、現在は具体的な取組を進めています。

屋久島にお越しの際は、ぜひ山岳部のトイレにも目を向けていただければありがたいです。

所属：環境省屋久島自然保護官事務所  
(E-mail: yasunori\_takenaka@env.go.jp)

## 沖縄の土木技術 による平和外交

沖縄県技術士会 会長 おおしろ まさと  
**大城 政人**  
(建設、総合技術監理・沖縄)



### 1. はじめに

国連開発計画(UNDP)の「気候に対して強靱な発展及びネット・ゼロに向けた太平洋地域におけるグリーントランスフォーメーション推進計画(太平洋島しょ国GXプロジェクト)」として、パプアニューギニア、サモア、東ティモール、バヌアツの政府関係者等が、沖縄の再生可能エネルギー導入やエネルギー転換に関する技術等の視察・研修を行う目的で来県された。本稿では2025年6月13日、本プロジェクトにてプレゼンを行った太平洋島しょ国の課題解決に貢献可能な沖縄の土木技術・製品の概要について述べる。

### 2. 沖縄の土木技術・製品の紹介

日本で唯一の島しょ県である沖縄には、世界の島しょ国・地域に共通する開発課題が存在しており、

本県の開発課題解決は、これらの国や地域に貢献できるものである。本プロジェクトにおいては、私が業務等において取り組んでいる赤土等流出防止技術、建設発生土のアップサイクル、小水力発電等に係る土木技術・製品を紹介した。UNDP訪問団は、沖縄の土木技術・製品に高い関心を寄せていた。

### 3. おわりに

本県で実施された沖縄の土木技術・製品をこれらの国や地域に普及させ開発課題解決を図ることは、沖縄並びに我が国の国際的プレゼンスの向上に繋がることが期待できる。今後もこのようなプロジェクトにおいて、沖縄での現地視察を通じ、海外からの訪問団と行政及び民間企業等との間の相互理解や交流の機会を創出し、地域外交を通じた知見の技術移転ができれば幸いである。最後に、沖縄の土木技術を世界の島しょ国・地域に普及させ、これらの国や地域の開発課題を解決することで、世界中の人々を笑顔いっぱいにする技術平和外交を、ウチナーンチュ(沖縄人)であり、技術士としての私のライフワークとしたい。

所属：株式会社南西環境研究所

(E-mail: masato@nansei-kankyo.co.jp)

## 修習技術者の声

### 技術士試験合格に 向けて

かつぬま はじめ  
**勝沼 元**  
(建設(修習)・鹿児島)



私は、建設コンサルタントの会社で、コンクリートを用いた橋の設計を担当しております。

仕様書をもとに、荷重を考慮し、設計ソフトやエクセルを用いて、橋の構造を計算し、計算した結果をもとに図面担当者に製図を依頼するという業務を行っております。

勤務先の社長(現会長)から、技術士試験受験を勧められ、令和6年度の技術士1次試験を突破。今回初めて2次試験を受験しました。1次試験の自己採点で合格見込みとなった段階で準備を始めましたが、最初は何をしたらよいのかうまくつかめなかったこともあり、本腰を入れて取り組み始めたのは、ゴールデンウィークが明けてからでした。

なかなか業務その他で時間が取れず、ユーチューブで対策動画を見たり、過去問をインターネットで調べながら解いたり、というところから始めてみました。

最初は、特に問題ⅠやⅢなど、3枚書き切ることすら難しく、「しまった、受験申込しなければよかった。もう少し力をつけてからでも良かったのでは」と思ったりしました。

それでも、何度か繰り返しているうちに、少しずつ書けるようになっていきました。

そして、7月、福岡まで行って2次試験を受験してきました。半分駄目もとで臨んだのですが、取りあえず書くだけは書こう。という思いで試験開始、すると、対策してきたところが出た、とか業務で関わった所が出た、ということで、筆を進めることができました。

一方、業務でやったんだけど、うろ覚えだよな、というところもありましたので、日々の業務に真面目に取り組むことも大切なんだな、と思いました。

今回どのような結果になるか、まだ読めないところもありますが、まずはチャレンジしてみることが大切だと思いました。

そして、技術士試験に合格できるよう、引き続き勉強や、日々の業務等に取り組みたいです。

最後になりますが、このような投稿の機会を作ってください、有難うございました。今後ともよろしく願いいたします。

勤務先：株式会社大雅

(E-mail: h.katsunuma@k-taiga.co.jp)

## 中央・統括本部情勢

### 理事会

## 理事会報告

にしい やすひろ  
理事 **西井 康浩**  
(フェロー、建設、CPD認定、博士(工学)・北九州)



2025-27期の第1回理事会が2025年度臨時理事会として、2025年6月16日に大手町サンケイプラザにおいて開催されました。実質的な第1回理事会となりました。今回は対面で参加しました。

主な審議事項と報告事項を紹介します。

### 1-1.会長、副会長の選定【審議】

会長に黒崎靖介氏（建設）、副会長に圓山満久氏（農業）、神田淳氏（船舶・海洋／航空・宇宙）、金秀俊氏（北海道）が選定され、承認されました。

### 1-2.常設委員会委員長の委嘱【報告】

以下のメンバーの委嘱が報告されました。

- ・倫理委員長 中野智仁氏（原子力・放射線）
- ・総務委員長 薄井和久氏（電気電子）
- ・企画委員長 神田淳氏（船舶・海洋／航空・宇宙）
- ・研修委員長 松山正弘氏（上下水道）
- ・広報委員長 藤原憲男氏（建設）

・社会委員長 小林政徳氏（機械）

・国際委員長 岡田和也氏（繊維）

続いて、第2回理事会が2025年7月9日に統括本部会議室にて開催され、対面で参加しました。

その主な審議事項と報告事項を紹介します。

### 2-1.役員の選任【審議】

会長・副会長を除く、審議員の選任、理事の委員会所属、地域本部長の選任、関東甲信地域県支部長の選任、部会長の委嘱、実行委員会委員の継続再任、常設委員会及び実行委員会委員の委嘱、実行委員会委員長の選任、その他の委嘱を承認しました。この中で著者は総務委員会副委員長を仰せつかりました。

### 2-2.第53回全国大会運営委員会について【審議】

第53回全国大会は統括本部が担当するため、早期に準備に取り掛かること、実行委員の職務は継続性を鑑みて、理事任期終了後も継続させることなどが承認されました。

### 2-3.技術士CPD実績管理登録状況について【報告】

正会員の初期登録者数は1,233人で、依然少ない状況にあるが、農水省の加点評価政策が影響して増加する部門もあったことが紹介されました。

### 2-4.地域組織との連携強化【意見】

黒崎会長より、地域組織と統括本部の連携強化を図ることが課題として示されました。

所属：西井技術士事務所

(E-mail : nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

### 地域本部長会議

## 2025年度第1回 地域本部長会議報告

さたけ よしろう  
九州本部長 **佐竹 芳郎**  
(建設、総合技術監理・福岡)



2025年6月9日（月）機械振興会館（東京）で開催した2025年度第1回地域本部長会議の概要を報告する。

【統括本部より説明】

### 1. 科学技術・学術審議会 第49回技術士分科会

①受験および登録手数料改定予定額について、値上げは確定しているが、金額は検討中。今後の改定頻度を抑える水準で設定予定。

②技術士制度改革の中の継続研鑽について、目指すターゲットの明確化が求められている。理想は維持しつつ、現実的な課題を踏まえたターゲット設定が必要。今後は制度全体の「グランドデザイン」を視野に入れ、議論の場の設置も検討する。

### 2. 与党技術士議員連盟について

与党議員連盟の支援を受けているが、党派を超えた国会全体での支援が望ましいとの意見もある。今

後は野党の動きにも柔軟に対応していく必要がある。

【地域本部よりの審議事項及び意見要望等】

1. 実行委員会参加の交通費補填をして欲しい（中部本部）→実行委員への交通費支給規定はなく、地域本部推薦の裏付けもないため、統括本部による支給は原則不可。ただし過去に例外あり。規定との乖離を踏まえ、総務委員会で見直しを検討中。改めて回答予定（統括本部）

2. 九州本部事務局のテナント貸室の賃料値上げに苦慮、支援できないか（九州本部）→統括本部は赤字続きで支援困難。各地域本部で参加費設定や安価物件の検討をして欲しい（統括本部）

3. 会員拡大の取り組みについて教えて欲しい（中国本部）→合格祝賀会で委員会等の活動紹介。青技交が合格者を二次会無料招待で入会促進に繋がっている。CPD行事は有料開催で、協賛団体に無料券発行や、会員非会員にかかわらずCPD行事のメルマガの登録を案内するなどしている（北海道本部）

【報告事項】

1. 北陸本部は、日韓技術士国際会議の事前会議報告と同会議の案内。来年度の全国大会等の予定報告

2. 九州本部は、本年度の全国大会の予定報告

所属：株式会社新世コンソーシアム

(E-mail : satake-yoshiro@ina.bbq.jp)

## 中央・統括本部情勢

### 統括本部総務委員会

#### 総務委員会報告

(前)総務委員 **にしい やすひろ**  
**西井 康浩**  
(フェロー、建設、CPD認定、博士(工学)・北九州)



2023-25期の第12回総務委員会と同地域小委員会が、2025年6月20日に開催されました。今回は自宅からWeb形式で参加しました。

まず地域小委員会ですが、次の3地域本部から報告と審議がありましたので、主なものを紹介します。

##### 1-1.外部審議会委員推薦の報告【北海道本部】

岩見沢市上下水道事業運営審議会委員の推薦について、北海道本部役員会にて審議され、推薦者の承認が得られたとの報告がありました。

##### 1-2.日本規格協会標準化活用支援パートナーシップ制度へのパートナー機関登録の審議【東北本部】

一般財団法人日本規格協会(JSA)標準化活用支援パートナーシップ制度へのパートナー機関登録について審議の依頼があり、これを承認しました。

##### 1-3.「近畿地方整備局新技術活用評価会議」の委員委嘱の報告【近畿本部】

近畿地方整備局より近畿地方整備局新技術活用評価会議委員の推薦依頼を受け、近畿本部役員会にて

審議の結果、近畿本部地域連携強化委員会のメンバーの一人を推薦したとの報告がありました。

続いて総務委員会の審議報告から主なものを紹介します。

##### 2-1.定款の変更について

6月16日開催の第67回定時総会において、正会員数の2/3(正会員約1.6万人に対して約1.2万人)を上回る賛同を得て「定款変更」が可決されました。

##### 2-2.関東甲信地域8県支部の連携強化推進について

関東甲信地域を束ねる上位組織および東京都支部がない現状について、意見交換の場を総務委員会が創設して行くことが確認されました。

##### 2-3.地域本部長任期の見直しについて

現規程では5期10年となっているが、原則3期6年(特別に事情がある場合は更に2期4年を限度に再任を認める)に規程を見直すことが確認されました。

##### 2-4.実行委員会のあり方についての検討

実行委員会委員について、部会や地域からの推薦方法の違いや旅費の問題などが議論されました。実行委員会は基本的には「人が動く組織」なので、首都圏の会員を対象にしていたとの認識が示されました。

今回をもって著者からの報告を終えます。

所属：西井技術士事務所  
(E-mail: nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

### 総務・企画委員会

#### 活動報告

総務・企画委員会委員長 **すえまつ まさのり**  
**末松 正典**  
(機械、総合技術監理・北九州)



総務・企画委員会が所管する業務は以下の10項目である。

- (1) 本部の組織・運営管理に関する事項
- (2) 本部主催行事の企画・実施に関する事項
- (3) 事業計画・報告案作成に関する事項
- (4) 財務の管理に関する事項
- (5) 統括本部・他地域本部・県支部及び他団体との連携に関する事項
- (6) 役員会運営及び実施に関する事項
- (7) 会員の顕彰に関する事項
- (8) 会員拡大に関する事項
- (9) 国際的活動に関する事項
- (10) その他、他の委員会の所掌にない事項

所管項目が多いため、委員12名を3つのグループに分けて対応している。

##### 1. 第1グループ; (4)(5)(6)(7)を所管。

- ・項目(4):九州本部の2025年度予算と執行状況及び、会計監査の準備状況を確認した。
- ・項目(5):熊本開催全国大会準備は順調に行われていることを確認した。
- ・項目(6):合同役員会への参加を通し、情報の収集及び共有化を図った。
- ・項目(7):会長表彰、本部長表彰等において、役員等履歴実績、過去の会長表彰や本部長表彰者を最新版に更新する等、整理を継続している。

##### 2. 第2グループ; (2)(3)(5)を所管。

- ・項目(5):講演や発表のオンライン化対応に向け九州各県支部との意見交換を継続している。今後隣県同士でのCPD等を実施する体制整備に関する可能性を継続して検討する。

##### 3. 第3グループ; (1)(8)(9)を所管。

- ・項目(8):2025年技術士全国大会(熊本・沖縄)の準備については三役会議を始め、研修委員会や合同役員会等で情報共有化に努めている。

所属：末松技術士事務所  
(E-mail: suematsu@hkg.odn.ne.jp)

## 委員会・部会報告

### 地域産業支援委員会

#### 「技術士の窓」HPサイトへの発信の呼びかけ～技術記事の寄稿依頼～

まつなが えいはちろう  
**松永 榮八郎**  
(金属、機械・北九州)



当委員会は、九州本部事業計画に記載のように、「九州の地方創生」に向けた視点から「地域産業の創生支援に寄与していくこと」が求められています。

具体的には技術開発等を希望する企業への課題解決に向けた相談・支援業務が期待されています。

#### 1. 技術相談件数を増やす仕掛けの構築

上述のミッションに対し当委員会では技術相談の窓口を設け、特に中小企業や団体、個人事業主より相談に応じてきました。技術相談の受付は、九州本部のHPの技術相談コーナーにアクセスするか、九州本部事務所に電話するかの方法がありますが、技術士会の存在が認知されていなければ、技術相談が来ることはありません。技術士会を知らなくても、ネットのブラウザから相談や技術的悩みを検索すればヒットでき、専門の技術士が対応できる状況を構築すべく活動してきました。

#### 2. 「『技術士の窓』～たずねてみよう技術と経験の交差点～」のHP新設と技術寄稿文の掲載

九州本部のHPに『技術士の窓』のサイトを新設し、各技術士の専門分野の技術寄稿文を掲載、ヒットできるようにしました。

#### 3. 取組の進捗

寄稿者はまず当委員会メンバーでスタートしました。現在全員終了し、今年度は九州本部の部会・委員会の皆様や幹事でない方も含めて依頼する予定です。また、リピート寄稿やシリーズでの寄稿も歓迎します。8月20日現在、11件掲載中です。上記QRコードでぜひご確認下さい。



なお8月には、このサイトを閲覧した企業から技術相談があり、対応中です。

#### 4. 技術士会員の皆様へお願い

上記の経緯を理解頂き、各位経験された技術を社会に発信してみませんか。これが技術士の社会貢献に当たると考えます。気軽にトライされることを切望します。作成・チェックのガイドやルールを設けています。寄稿を通じての技術士同士の深い理解も得られます。ぜひ積極的な参画・ご協力をお願い致します。

(E-mail : matsu.pebutsu@gmail.com)

### 研修委員会

#### 九州本部第1回 CPD報告

たなまち しゅういち  
研修委員会委員 **棚町 修一**  
(建設、総合技術監理・福岡)



令和7年5月24日(土)、福岡商工会議所の406号～407号室において、2025年度第1回CPDが開催され、87名(会場48名、Web39名)の参加があった。

以下に、講師4名の講演概要を記載する。

#### 1. 「アフガニスタン視察報告(中村哲医師のアフガニスタン水利事業のその後)」

講師：大和 則夫氏(ペシャワール会 技術支援チーム理事)

中村先生の足跡である灌漑施設の経緯、水利事業の特徴、そして、先生没後の灌漑事業の推移について説明された。現地の灌漑施設を見て回り、先生が育てた現地のPMS(現地の事業体)技術者と協力しながら、その後の事業をサポートしている様子を説明された。

#### 2. 「遠賀川の流域治水と河川整備基本方針の改定について」

講師：古賀 忠直氏(国土交通省九州地方整備局 遠賀川河川事務所 建設専門官 技術士(建設))

気候変動による降雨量の増大に対してこれまでの河川管理者だけの河川改修では対応しきれない状況になっていることを説明され、これからは、流域全体を俯瞰し、あらゆる関係者が協働し取り組む「流域治水」が重要であることを説明されました。

#### 3. 「ブルーカーボン調査のための自律型水中ロボット関連技術の紹介」

講師：西田 祐也氏(九州工業大学 生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻 准教授/博士(工学))

海洋植物CO<sub>2</sub>を取り込み、海底や深海に蓄積されるブルーカーボンが世界的に注目されている。自律型水中ロボットを用いた効率的なブルーカーボンの調査に際しての課題、及びこれまでに開発した最先端の手法について説明された。

#### 4. 「DX時代の製造業変革戦略」

講師：久池井 茂氏(北九州工業高等専門学校 生産デザイン工学科 知能ロボットシステムコース 教授/博士(工学))

DXがもたらす製造業の全体最適化と競争優位性向上を目的に、IoT、AI、ビッグデータ、ロボット活用を推進し、現場データの可視化、解析、最適化を進め、また、人材育成を通じてシステム思考やデータ活用力を備えた専門家の育成を目指していると説明された。

所属：株式会社アーバンデザインコンサルタント  
(E-mail : tanamachi@udc-ap.co.jp)

## 委員会・部会報告

### 研修委員会

#### 九州本部第2回 CPD報告

研修委員会委員 くぼかわ たかとし  
**久保川 孝俊**  
(建設、総合技術監理・福岡)



令和7年7月26日(土)、福岡商工会議所の401号～404号室において、2025年度第2回CPDが開催され、84名(会場47名、Web37名)の参加があった。

以下に、講師4名の講演概要を記載する。

#### 1. 「ドラッグデリバリーシステム (DDS) 研究開発の変遷」

講師：赤尾 哲之氏(みやま市バイオマスセンター／博士(理学))

ドラッグデリバリーシステム(DDS)とは、必要な時間・場所に有効量の薬剤を届けることを目指した制御技術で、バイオ医薬品にも適用すべく研究されてきた。なぜCOVID-19ワクチン開発が短期間で成功したかを、DDS開発の原理を利用して、解説された。

#### 2. 「工学系大学におけるAI・IoTの教育・研究の展望」

講師：武村 泰範氏(西日本工業大学工学部 総合システ

ム工学科電気情報工学系 教授／博士(工学))

ハード面を基幹とした移動ロボットの自動化・知能化などの研究知見を基に、ロボカップ参戦を通じて学生のロボット制作に、個々の部品から組み立てさせ、失敗からの学びを指導するなど、大学におけるIoTを基盤とするAI活用の教育的実践と展望について、解説された。

#### 3. 「新しい国土強靱化5か年計画」

講師：青野 正志氏(国土交通省九州地方整備局 企画部長)

防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策の最終年度となる2025年3月31日に、南海トラフ巨大地震の新たな被害想定を公表されている。政府は次期5か年計画の検討を進めており、新しい国土強靱化5か年計画について、その概要を説明された。

#### 4. 「半導体産業の集積が進む九州の現状と展望」

講師：岡野 秀之氏(公益財団法人九州経済調査協会 常務理事兼調査研究部長)

元々半導体産業の集積地であった九州にTSMCが進出してきたことで、九州の経済的ポテンシャルの高さを示され、急速な集積による社会経済活動へのリスクなどを指摘しつつ、今回の集積で九州地域が成長するための課題と期待について、問題を提起された。

所属：株式会社テクノ大地

(E-mail: shiosai6510@gmail.com)

### 倫理委員会

#### 活動報告

委員長 さとう みつお  
**佐藤 光雄**  
(建設、総合技術監理・大分)



このたび倫理委員会の委員長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。ここでは昨年度の永岩前委員長の下での活動と今年度の7月までの活動について、ご報告申し上げます。

#### 1. 研鑽活動(委員による意見発表と意見交換)

新技術士倫理綱領についての研鑽として、「7. 秘密情報の保護」久原委員、「8. 法令等の遵守」河本委員より意見発表が行われ、各委員よりさまざまな視点から意見交換が行われました。

#### 2. 4つのチームに分かれての分科会活動と講師派遣

新技術士倫理綱領を題材としての委員相互の研鑽が今年度で一区切りとなりますので、企画配信タスクチームにより新たな研鑽企画として「法と倫理」を題材とした企画がスタートしています。

活動管理タスクチームの委員各位により、技術士だよりへの投稿と定例会の議事録の整理が行われました。また、教育啓発タスクチームでは高畦委員が中心となって技術者倫理に関するアンケートを実施し、アンケート結果が取りまとめられ活動成果として報告されました。さらに、連携・交流タスクチームの活動として、中国本部主催の11月2日のCPD講演会に、井内委員が講師として派遣され、「動物の権利訴訟」から考えると題して講演を行いました。

また、九州本部主催の2024年度第4回CPD講演会に植木委員が講師として派遣され「技術者としての幸福を考えるために考えておくべきこと」と題して講演を行いました。

#### 3. 統括本部倫理委員会への参加

永岩前委員長が地域本部から推薦された4人の委員の一人として統括本部倫理委員会に参加しました。

#### 4. 第51回技術士全国大会(熊本・九州沖縄)の技術者倫理情報交換会に向けての準備

10月25日に行われる技術者倫理情報交換会のホストとしての役割を担うべく、中国本部との連携を見据え、中国・九州倫理連絡会を月に1回程度WEBで行うことを始め全国大会の準備を進めています。

(E-mail: m-sato@nts-giken.co.jp)

## 防災委員会

### 防災委員会活動

防災委員会委員長 **石本 俊亮**  
(建設、総合技術監理・福岡)



2025年度の新しい体制と活動報実績並びに年内の主要な活動予定について報告いたします。

#### 1. 2025年度～2026年度防災委員会の体制

南嶋副委員長の退任に伴い、緒方委員、古賀委員を新たに副委員長とし、副委員長4名体制としました。また、箆島委員(化学)、田辺委員(機械)、久富委員(情報工学)の3名のご退任に伴い、安武委員(化学)、大森委員(機械)、山田委員(情報工学)、高嶋委員(応用理学・建設)の4名の方に新たに参加いただきました。防災は幅広い視点での検討が必要です。電気電子、金属、森林、水産等、20部門からのご参加をお待ちしています。

#### 2. 活動報告

##### ・2025年度第1回防災委員会

7月19日(土)14時から17時で実施しました。今回は稲垣委員より、コンクリートについて最新の情報を発表いただきました。廃棄物処理灰の活

用については、各委員との活発な意見交換がありました。

そのほか、防災委員会のWGの活動や全国大会、防災・減災フェア等について情報共有を行いました。

#### 3. 年内の主要な活動報告

##### ・9月1日(月)全国防災連絡会

統括本部防災支援委員会を中心に、各地域本部の代表により防災に関するテーマで意見交換を実施します。今年は「大規模災害発生後における士業連携と技術士会の役割」というテーマで議論をおこないます。

##### ・ワークショップBOUSAI(10月25日)

「避難おくれゼロ」を目指して、どのような活動を展開する必要があるか、全国の技術士で議論を行います。

##### ・10月26日分科会(防災)

連携のチカラ「経験を活かす・備える」をテーマに、講師3名による講演会を実施します。

##### ・11月19日、20日先進建設、防災減災フェア

熊本市で実施される標記フェアに参加します。

##### ・11月29日警固校区自治協防災授業

警固校区自治協で地震をテーマに講演を行います。

所属：アジア共同設計コンサルタント  
(E-mail: toshiaki\_ishimoto@yahoo.co.jp)

## 青年技術士交流委員会

### 拡大委員会参加報告

委員長 **山田 暁通**  
(情報工学・福岡)



2025年6月21・6月22日の両日にわたり、統括本部の青年技術士支援委員会の拡大委員会が開催されました。全国8地域本部の青年技術士交流委員が参加し、各地域本部交流会・大懇親会・テクノツアーにて交流を深めてきました。九州本部からは、私と倉成副委員長が現地参加してきました。

#### ■6/21(土)各地域本部交流会・大懇親会

川崎市の川崎市教育文化会館にて、拡大委員会・各地域本部交流会・大懇親会が開催されました。ここでは、例年各地域本部の活動内容や各地域の紹介プレゼンを行うのですが、今回は各地域の遺産紹介とのお題から、今年熊本にて開催される技術士全国大会に関連して、通潤橋を紹介してきました。また、熊本大会での青年行事で通潤橋ツアーを検討している旨を話したのですが、他地域本部からの感触が良く、熊本大会を楽しみにしているという声を多数得

られました。

#### ■6/22(日)テクノツアー・懇親会

翌日は川崎市で集合後、大型バスで千葉県へと移動し、養老川流域田淵の地磁気逆転層(チバニアン)でのテクノツアーに参加しました。地磁気逆転層は、約77万4千年前に積もった白尾火山灰層を基準とした地球の磁場反転の痕跡とのことで、千葉大准教授の泉健太郎氏による分かりやすい解説で、国際地質科学連合(IUGS)により国際境界模式層断面とポイント(GSSP)とされチバニアンと命名された経緯などを分かりやすく解説してもらいました。

その後、品川駅近郊にて懇親会(BBQ)があり、各地の新たな青年の仲間との交流を深めました。



テクノツアーの風景(左:断面層、右:GSSP)

所属：株式会社ロバストプラン  
(E-mail: akimichi@robustplan.com)

## 委員会・部会報告

### 北九州地区支部支援委員会

#### 18歳の高専生から学ぶ

委員長 **むた ひであき**  
**牟田 英昭**

(建設、総合技術監理・北九州)



6月度の北九州CPDでは、全国高等専門学校ロボットコンテストへの挑戦について、北九州工業高等専門学校 機械創造システムコース 3年生の黒瀬悠斗氏から講義を受けた。高専ロボコンは、NHKの主催により全国の高等専門学校の学生たちが、自ら設計・製作・制御したロボットを競わせる技術コンテストであり、創造力と技術力を育むことを目的としている。北九州高専ロボコン部「あぼうたあ〜ず」は、2023年度の地区大会で優勝、全国大会では特別賞を受賞している。黒瀬講師は全国大会でピットクルーとして参加した。

講義ではまず、高専ロボコンの歴史と目的、2024年度の大会のルール、実際のロボット設計・製作や

チームでの役割分担、各ルールの克服方法などについて紹介された。さらに、参加することで得られる学びや経験、そして将来への影響についても語られ、ロボコンが教育に与える意義について理解が進んだ。

ロボットの制作にあたっては、アイデア出し、試作、本設計、回路設計、実験などを全て学生が行うことや、「カーボンファイバー3Dプリンター」や「三軸加工機」などを駆使して制作すること、制作班・回路班に分かれ、タスク管理・アイデア出しをアプリ上で行い進捗管理まで18歳の学生が行えることに驚嘆した。高専ロボコンの魅力と、その裏にある学生たちの情熱や努力が十分に伝わる内容であった。まさにNHKテレビ番組「魔改造の夜」そのものであった。

最後に、北九州高専の久池井茂先生に黒瀬氏をご紹介頂いたことで、今回のCPDが実現した。若い技術者を地域で応援しながら育てていくことは、技術士会が果たす役割の一つになっている。

[2025年度上期 北九州地区支部支援委員会活動報告]  
(E-mail: muta-san@jcom.home.ne.jp)

### 試験業務支援委員会

#### 活動報告

副委員長 **なかの ゆきお**  
**仲野 幸男**  
(建設・福岡)



令和7年度技術士第二次試験は総合技術監理部門が7月20日(日)、技術士20部門が7月21日(月)に福岡工業大学で実施されました。試験結果の主な事項を報告します。

#### 1. 受験者数の推移

令和7年度の二次試験の申込者数及び受験者数は表-1の通りです。また、受験者は昨年度に対して総合技術監理部門で5名の増加、技術士180名の増加となりました。

試験日	令和6年度		令和7年度	
	7月14日	7月15日	7月20日	7月21日
	総監部門	技術士20部門	総監部門	技術士20部門
申込者数	319	2746	328	2845
受験者数	257	2047	262	2227
受験率%	80.6%	74.5%	79.9%	78.3%

表-1：昨年度比較

#### 2. 試験までの準備、対策

1) 二次試験の準備は昨年の二次試験の終了後、福工大に対し7年度二次試験の試験会場使用の協議から始まり、今年の3月までに使用願いの提出、許可を済ませました。5月20日には福工大側と試験会場の打ち合わせや教室のレイアウト確認等を済ませました。7月2日には九州本部で試験委員会による二次試験前の事前会議を行い、試験本部員の役割分担や注意事項の確認および統括本部からの連絡事項等を周知徹底しました。

2) 今年度の試験はコロナ対策がなくなりましたが、異常な猛暑による熱中症対策として受験者が体調不良で受験中断した場合の扱いや試験教室の空調整備に不備がないよう傾注してまいりました。

#### 3. おわりに

今年は体調不良で試験を棄権する受験者が見られました。また試験会場がほかの資格試験と重なり、狭い教室での試験本部室になりましたが、関係者の協力を得ながら大きな問題もなく無事に試験を終えることができました。

(E-mail: yukio-n@kaw.bbiq.jp)

## みどり部会

### 令和7年度CPD活動

みどり部会長 やまべ てつろう  
**山部 鉄朗**  
(森林・福岡)



今回は、みどり部会の現在実施している3つのCPD計画についてご紹介します。

#### 1. 九州地区森林技術者研修会

この計画は、主催者(公社)森林・自然環境技術教育研究センター(jafee)に九州本部が事務局業務で協力し、毎年九州各県持ち回りで実施しており、今年は佐賀市で11月7日(金)に実施します。テーマは、『阿蘇4火砕流による森林破壊と地形改変の痕跡』(佐賀大学非常勤講師 下山正一氏)や『次世代スギ「サガンスギ」の研究開発成果』(佐賀県林業試験場特別研究員 福井遼氏)、『海岸防災林の機能と虹ノ松原』((株)国土防災技術営業本部長 佐藤亜貴夫)、『令和2年7月熊本県葦北地区の山地災害対策』(熊本営林局治山課長 中島朝和)の4題で森林に関する幅広い内容となっています。今回は、対象に技術士やjafee会員の他佐賀大学農学部学生も

加え森林や技術士制度にも関心を持っていただききっかけになればと考えています。

#### 2. みどり部会現地見学会

部会では毎年バス移動での見学会を実施しており、今年は12月17日(水)に朝倉市の水資源機構 筑後川上流総合管理所で、『筑後川水系の上・中流にある江川ダム、寺内ダム、小石原川ダムの連携』についてのテーマでの講演と寺内ダムの見学を予定しています。

#### 3. 農業部会講演会

4月、6月、12月、2月の第一土曜日に農業部会講演会を九州本部でTeamsでの集合視聴(無料)で行っています。参加者同士での議論なども活性化されるので個人視聴より効果的な研修が可能であり、現在は中国本部と東北本部でも実施しています。なお、みどり部会現地見学会と農業部会見学会については、なかなか参加者が集まらないので今年から、技術士に関心がある学生にも声掛けを始めています。

具体的には、現在私がかかわっている九州大学農学部森林政策学の学生に声をかけており、6月の農業部会講演会には修士課程の学生(昨年森林部門で技術士一次試験合格)が参加しており、8月も博士課程の学生が参加予定です。

所属：株式会社コンサルハマダ福岡支店  
(E-mail: angle26of26repose626@gmail.com)

## 建設部会

### 建設部会報告

建設部会長 おかだ ひろあき  
**岡田 裕彰**  
(建設、総合技術監理・福岡)



#### 1. はじめに

建設部会の今年度の主な活動予定等について以下のとおり報告します。

#### 2. 建設部会の今年度の活動予定について

##### ① 現地見学会

11月11日(火)に実施予定で、視察先は「北九州空港」並びに「苅田港」です。北九州空港は2023年12月に滑走路の延長工事(2500mから3000mに延長)に着手し2027年の供用開始を目指して事業が進められています。今回は、その整備事業の状況等を現地で直接視察する機会を提供します。また、苅田港は九州北東部の重要港湾で、北九州空港や東九州自動車道とともに物流ネットワークの結節点となっており、今回の視察では苅田港の新松山地区の事業を中心に視察する予定です。詳細はHP等でご確認ください。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

#### ② 技術講演会

講演会のテーマや実施時期等については現在検討中です。詳細が固まり次第HP等でお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

#### 3. 技術士全国大会建設部会意見交換会について

第51回技術士全国大会が10月25日から熊本市の熊本城ホールで開催されます。大会の初日には、関連行事として建設部会意見交換会が開催されます。

この会議は、全国の建設部会の活動状況や課題を共有し、相互に意見交換できる貴重な機会となっています。会議は公開でWEBでの配信も予定されています。

会員の皆様の参加をよろしくお願いいたします。

#### 4. 技術士CPDの実績登録について

技術士の新たなCPDの実績管理・活用制度が始まって4年になります。この制度は、技術士のCPD活動の状況を公的に裏付け、技術士の資格の活用を図っていくとするものです。CPD活動実績登録は日本技術士会の会員専用マイページから簡単に申請できますので、会員の皆様は制度の趣旨をご理解の上、積極的な実績登録をよろしくお願いいたします。

#### 5. おわりに

建設部会の活動に関するご要望ご意見等ございましたら下記までお寄せください。

所属：西鉄シー・イー・コンサルタント株式会社  
(E-mail: hiroaki.okada.km@nnr-g.com)

## 委員会・部会報告

### 環境部会

#### 環境部会報告(幹事会)

環境部会長 まつだ けんし  
**松田 研志**  
(上下水道、建設、総合技術監理・福岡)



##### 1. はじめに

環境部会は、九州地区の上下水道部門、衛生工学部門、環境部門の3部門からなる部会です。

本稿では、2025年7月と8月に実施した環境部会幹事会について報告いたします。

##### 2. 幹事会の内容

環境部会の幹事会は、13名の幹事で構成されています。幹事会は九州本部事務局に集合し、対面式で実施しました。

内容は、今年度実施する講演会と見学会の詳細決定と役割分担の決定です。

特に講演会は、今年度から会場参加と有料のオンライン参加を併用するため、オンライン配信の機材の準備と予行演習を入念に行いました。

##### 3. 講演会の計画

今年度の講演会の演題は、①「流域治水を支えるボトムアップ型IoT技術や曝露量低減に向けた研究」(講師：九州大学工学研究院 附属アジア防災研究センター 准教授 佐藤辰郎氏)と②「九州の地下エネルギー資源に関する最近の話題」(講師：九州大学工学研究院 地球資源システム工学部門 エネルギー資源工学講座 教授 山田泰広氏)にしました。

講演会の開催日は、9月25日(木)としました。

講演会の実施内容については、次号で報告いたします。

##### 4. 見学会の計画

今年度の見学会の見学先とテーマは、①海の中道 奈多海水淡水化センター(テーマ：未利用資源で浸透圧発電)、②西部ガスひびきLNG基地(テーマ：メタネーション実証事業)としました。共に新技術であり、大変興味深い内容です。

見学会の開催日は、12月4日(木)としました。

多数の参加をお願いいたします。

所属：松田技術士事務所  
(E-mail : matsu1@docomonet.jp)

### ものづくり部会

#### ものづくりのDNAを受け継ぐ

ものづくり部会幹事 かねまる やすひさ  
**金丸 泰久**  
(機械・福岡)



皆様は、うきた こうきち浮田幸吉という人物をご存じでしょうか。

江戸時代、備前の国(現在の岡山県)で表具師(屏風や掛け軸などを造る職人)を生業としていた彼こそ、日本における「空への夢」を具現化した先駆者です。幸吉は、鳥の羽にヒントを得て、竹と紙と布を使い試作を繰り返し、28歳の時にグライダーを製作。1785年の夏には、橋の上から数十メートル滑空した記録が残っています。これは、世界初のグライダー滑空成功とされるジョージ・ケイリーよりも60年以上も早い偉業です(詳細は飯嶋和一氏著『始祖鳥記』参照)。火縄銃の製造、蒸気船の自作など、日本人によるこうした驚くべき「ものづくり」の逸話は枚挙にいとまがありません。約4万年前の石器時代から、私たち日本人に連綿と受け継がれてきた「ものづくりのDNA」がそこには息づいています。

しかし、1990年代以降のグローバル化の波の中で、生産拠点の海外移転と同時に、長年培ってきた技術やノウハウも流出、その力を発揮できる場が減少してきました。ここ30年、日本の国力やGDPは伸び悩み、かつての勢いを失いつつあるのが現状です。この厳しい時代において、私たち技術士は、日本のものづくりを再興し、新たな価値を創造することで、日本を豊かにしていくという重大な使命を担っています。ものづくり部会では、この使命を果たすべく、①有識者との議論をベースとしたCPDの開催、②企業や大学で行われているものづくりの現場見学会を軸に活動しています。個人的には、様々な規制(温暖化防止、マイクロプラスチック、リサイクルなど)に縛られる技術だけでなく、より多くの人に感動、感謝される技術、そして何よりも、技術者自身が「わくわくドキドキ」しながら取組める技術やものづくりが、再び花開くきっかけとなればと願っています。日本人に連綿と受け継がれてきたものづくりのDNAを後世に受け継ぐべく、先ずは私たち自身が感動と充実感を持ち、それを他者に伝え、理解を深めてもらうための努力をする。技術士の皆様、一緒に九州から、ものづくりを盛り上げていきましょう。

所属：1FINITY株式会社  
(E-mail : kanegolf1965@gmail.com)

## 合同役員会

### 2025～2026年度 九州本部役員体制

事務局長 <sup>てらち</sup> **寺地** <sup>まもる</sup> **守**  
(建設・福岡)



7月12日、年次大会、合同役員会が開催されました。年次大会資料、役員会議事録はホームページ会員専用アップしています。

年次大会には会場41名、オンライン13名が参加し、事業報告、決算報告、本部長表彰などに続き、特別講演会「ウクライナ情勢と終戦への課題」を、大阪経済大学国際共創学部准教授の友次晋介氏から聴講しました。

合同役員会は、今回2年毎の役員改選時期にあり、4月に会員の信任投票で選出された幹事から役員が選任されました。主な変更は、前理事の田沼和夫氏が副本部長へ、新理事に西井康浩氏、広報委員長に倉成真一氏、倫理委員長に佐藤光雄氏、北九州地区委員長に牟田英昭氏、防災副委員長に緒方正隆氏となっています。このほか顧問の日野久留米大学学長を継続し、参与には新たに中村勲氏を置くことと

しました。

統括本部常設委員会、実行委員会等への委員推薦は従来少なかったものの、近年オンライン参加も可能なことから総務委員に持田託児氏のほか、企画、広報、倫理、社会、研修、青年、防災支援、技術士資格活用の各委員会へも推薦し、参加することとなりました。統括本部及び全国との情報共有が期待されます。

県支部幹事から推薦のあった支部長が承認され全員継続することとなりました。併せて県支部役員改正に伴う県支部の運営についての手引き（県支部規約）改正を承認しました。

年度当初にあたり、年間の主要行事を確認し、新たに活動に参加していただく委員会委員、部会幹事の変更を承認しました（詳細はHP会員専用公開）。これらの新役員、委員体制は、任期2年で、2027年6月までとなっています。

また年間事業計画、事業予算を承認しました。

最後に、今年10月の全国大会開催に向けて清崎実行委員長から準備状況、来賓案内、協賛金募集、参加受付（7/7～9/10）が始まっていることの報告がありました。10年に一度の九州での全国大会が成功するよう、会員の参加、協力を切にお願いいたします。

所属：日本地研株式会社  
(E-mail : terachi@chiken.co.jp)

## 支部だより

### 佐 賀

#### 春の技術懇話会

～環境の保全による  
低炭素社会の実現～

副支部長 <sup>こが</sup> **古賀** <sup>ひろふみ</sup> **浩史**  
(建設・佐賀)



令和7年5月22日(木)に「令和7年度第1回技術懇話会」をメートプラザ佐賀で開催しました。佐賀県支部では、会員および県内外の技術者のスキルアップと親交を深める目的で、春と秋に技術懇話会(CPD)を開催しています。令和5年度より「環境の保全による低炭素社会の実現」を大テーマとして懇話会を開催しており、今回はこのテーマによる3年目のCPD年度となっています。

**テーマ1：小城市が実践する脱炭素の取り組み  
～電力の自給自足を行う庁舎防災機能強靱化事業～**  
講師：小城市 古賀勝貴

世界の温暖化の現状と、温暖化の影響による佐賀県の状況が説明されました。温暖化防止のための脱炭素の取り組みとして、全国でも数少ない「電力の自給自足」を実現している、小城市庁舎の取り組み

についての詳細な説明と将来像が紹介されました。カーポート型太陽光パネル552kWp、蓄電池3,456kWhの設備設置に加えて、LED照明や省エネ空調設備により自給自足を実現しています。また、その他の活動として、市で開催するエコフェスタやデコ活宣言、今後の再生可能エネルギー導入計画が策定されています。

**テーマ2：地域社会の環境問題を「かぐやロード」で解決!! ～サーキュラーエコノミー・カーボンニュートラル可能な次世代の防草・舗装材～**  
講師：日本乾溜工業株式会社 中原悠貴

竹繊維入りの土系舗装材、「かぐやロード」の開発コンセプトや性能、施工事例が紹介されました。雑草や放置竹林問題の解決のために、土堀や三和土をモチーフに、セメントを使用しない「現代版のたたき土」を開発。竹繊維等の自然素材による品質のばらつきを抑えるために、徹底した配合管理によりブレミックスされた商品です。雑草対策と安定した舗装性能に加え、地域資源の活用、ヒートアイランド減少の緩和、施工後のCO<sub>2</sub>吸着固定等の効果が期待できます。

今後も継続的に技術懇話会(CPD)を開催し、技術力向上と異業種交流に貢献したいと考えています。

(E-mail : koga@shinwa-techno.co.jp)

## 支部だより

### 長 崎

## 第1回見学会 島原道路沈埋工法

長崎県支部理事(CPD担当) やまもと **山本** ともひこ **奉彦**  
(農業、建設・長崎)



令和7年5月23日(金)、雲仙市愛野町・吾妻町において「令和7年度 長崎県支部 第1回見学会」を開催、18名が参加しました。

長崎県島原振興局建設部道路第二課 西山純係長を講師に迎え、島原道路の事業概要や進捗状況、および、一般国道251号線(瑞穂吾妻バイパス)山田原地区における本線函渠工の計画と施工について講演と現場説明を頂きました。

広域道路ネットワークの一環として整備中の島原道路は、諫早ICから雲仙市と島原市を經由し南島原市深江町を結ぶ約50kmの自動車専用道路です。従来、国道57号線と広域農道経由で90分の所要時間が全線開通後は40分と大幅な時間短縮が図られ、渋滞緩和のほか島原半島の基幹産業である観光や農業の振興、救急医療体制の強化等が期待されており、

現在、約25kmが供用中、約21.7kmを整備中です。

吾妻町山田原地区は、農地の基盤整備を契機に、全国有数のプロッコリー産地になっており、農地の縮小や分断を回避するため、地区内の657m区間は、内空断面W7.5m、H約5m×上下線2連の沈埋工法による函渠工で設計されており、令和8年度完成を目指して工事が進められています。

今回の現場は、函渠工が広域農道と立体交差する箇所であり、あらかじめ迂回路が設置されていました。1断面5分割、幅1mに工場製作されたコンクリート部材をトレーラーで搬入、200t吊クローラークレーンで据付後、部材を連結、1断面の据付が完了したら、縦締めと緊張を行い、グラウト注入や底版コンクリートを打設します。

現場では、JVの技術者やオペレーターなど、総勢22名で作業が行われており、見学者が見守る中、約20tのヘッドスラブがクレーンで持ち上げられ、サイドウォールとセンターウォール上に据え付けられました。

参加者は、講師や現場技術者に熱心に質問し、日頃、見る機会が少ない工法に対する関心の高さがうかがわれました。

所属：扇精光コンサルタンツ株式会社  
(E-mail: t.yamamoto@ougis.co.jp)

### 大 分

## 大分県支部年次報告会 及びCPD研修会の開催

あべ **安部** つとむ **勉**  
(建設、総合技術監理・大分)



去る6月21日、大分市内で大分県支部と大分県技術士協議会合同の年次報告会が参加者41名(うち合格者4名)の参加のもと開催されました。

湯地支部長の挨拶の中で、大分県支部は会員数が九州2位(150名)、登録技術士に占める会員の割合が九州1位(約27%)であることから、九州本部内での活動が活発な支部であり、引き続きこの状況を続けていきたいと思いますとのことでした。続いて、大分県土木建築部の小野部長よりご来賓挨拶をいただきました。その後、事務局より令和6年度事業報告並びに令和7年度事業計画についての説明、九州本部各委員会の報告があり、大分県から5名が選任されている倫理委員会の活動報告では、倫理は部門によらない技術士会らしい活動ではないかとのことでした。

また、今回のCPD研修会は、大成ジオテック(株)

の辻講師より『R6道路橋定期点検要領の改定について』の演題で講演をいただきました。過去10年間の点検結果を踏まえ、点検技術の質の確保と合理化についてや、少子高齢化が進展する中で、維持管理を担う点検・診断技術者の確保や育成が喫緊の課題であることを再認識しました。

報告会終了後は、新規合格者祝賀会を兼ねた懇親会が開催されました。竹内協議会会長による乾杯で始まり、各所で活発な意見交換が行われ、途中、新規合格者の自己紹介や今後の抱負等の発表が行われました。

最後に、松原副支部長による一本締めで会を締め、散会となりました。



所属：株式会社安部組  
(E-mail: abe-t.abe@shirt.ocn.ne.jp)

## CPD報告

長 崎

### 長崎県支部 第1回CPD研修会報告

よしむら けんいちろう  
吉村 賢一郎

(環境、総合技術監理・長崎)



長崎県支部の令和7年度第1回CPD研修会が6月7日、年次大会終了後に開催（講演2題）されましたので概略を報告します（参加者数55名）。

#### 演題1.「私の技術者倫理（私たちは何も知らない）」 講師：佐藤 光雄氏（九州本部倫理委員会副委員長）

佐藤講師から、講師自身が影響を受けた書籍や言葉を紹介しながら、技術者が常に謙虚で社会貢献や相互扶助ができる倫理観の形成についての貴重な講演でした。要点は以下のとおりです。

- (1) 技術者は高学歴で高度な知識を有しているにも拘わらず、「知ったかぶり」で高慢となり中途半端な対応により、組織的な不祥事や事故が後を絶たない。技術者が知り得る知識は専門的な一側面に過ぎず意外にも狭く、実は何も知らない。したがって技術者は常に謙虚で問を立てながら知的に対応しなければ、社会の要請に応えることはできない。

- (2) 人間はものごとを純粋に直観し、動物的本能ではなく人間としての情緒を磨くこと。人間は純粋直観的に「アッ」と気付く『腑に落ちた瞬間』があり、この時点で貴重な価値観が形成される。
- (3) 現代は競争社会・市場経済社会であるが故に、皆が「自分が正しい」と思い込んでいるため人間相互間に軋轢や葛藤が生ずる。一方「公衆の安全・健康・福利」を最優先事項として念頭に置き、純粋直観を磨きながら行動することが社会全体の幸せに繋がる。

#### 演題2.「技術士CPD活動実績の管理及び活用制度、技術士（CPD認定）」

講師：山口 昭光氏（九州本部長崎支部長）

技術士CPD活動実績登録認定制度が新たに令和3年9月8日にスタートし、4年が経過したにも拘わらず、本制度の活用が全国的に低調です。本支部でも活用者は会員の僅か2割程度とのことでした。

そこで本日は、山口支部長から本制度の趣旨、活動実績のオンライン登録方法、実績証明書発行要領からCPD認定技術士の認定証発行に至るまでの一連の流れ及び手順について、パソコン操作法を含めて詳しい説明がありました。本制度の活用率向上が課題です。

所属：吉村技術士&行政書士環境事務所  
(E-mail: k\_yoshimura1@yahoo.co.jp)

鹿児島

### 第47回 CPD講演会報告

みやぞの しょうじ  
宮園 穰二

(建設・鹿児島)



#### 1. はじめに

2025年7月19日（土）、鹿児島市勤労者交流センターで開催した第47回CPD講演会について報告する。参加者は、会員26名（Web2名）であった。

#### 2. 講演1「鹿児島県支部年次大会」

年次大会では、井内支部長から、鹿児島県支部役員の紹介、2024年度事業実績報告並びに収支決算、2025年度事業計画並びに収支予算説明があった。また、熊本市で10月25日から10月28日に開催される技術士全国大会について参加申し込みの案内があった。

#### 3. 講演2「九州地方整備局 港湾空港部の事業概要と鹿児島港・川内港・指宿港海岸の役割」

講師：藤井寧 氏 国土交通省九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所長

港湾の役割は、輸送拠点、企業活動の場、親水空

間であり、人々が集う賑わい拠点である。港湾整備により、国際競争力の強化、地域活性化と防災力の強化、安心安全の確保、高潮対策、船舶航行の安全確保と海域環境の保全が図られている。

博多港では国際海上コンテナターミナル整備事業による国際競争力の強化、八代港では港湾整備による地域経済の活性化と防災力強化、志布志港ではヤードを有効活用した原木輸出に資する事業を行っている。

福岡空港では滑走路処理能力向上のため滑走路増設事業等を実施している。

鹿児島港では、港湾物流ネットワークの強化、交通混雑の緩和に寄与するために臨港道路整備事業、川内港では、船舶の大型化に対応するため国際物流ターミナル整備事業を行っている。

指宿港海岸では、後背地の越波・浸水被害を防ぐため、直轄海岸保全施設整備事業を行っている。

それぞれのニーズに応じて港湾・海岸整備を進めており、人々の経済的な発展や安全・安心な暮らし、より豊かな生活が送れるような「港によるまちづくり」を行っていくことが重要であると述べられた。

九州地方整備局管内の事業概要について語っていただき有意義な講演であった。

所属：株式会社日峰測地  
(E-mail: joj.miyazono@gmail.com)

## 送風機自動設計システムの開発

よしかい ひろと  
吉海 寛人  
(機械・熊本)



### 1. はじめに

20世紀末から今日まで、送風機の優良大手企業では当たり前であった自動設計システムを、18年の開発期間を経て弊社もようやく揃えることができた。

出来上がった送風機自動設計システムは、競争力10割の優良大手企業に対し、弊社製送風機の競争力をこれまでの3割から8割まで飛躍的に高め、ともに競争できるようになったと考えている。

送風機自動設計システムの開発の背景、内容、効果について紹介する。

### 2. 開発の背景

送風機は大きく分けて、図1に示される軸流ファン（軸流送風機）と、図2に示される遠心ファン（遠心送風機）に大別される（斜流ファンは省略）。



図1 軸流ファン



図2 遠心ファン

小生は、過去に某優良大手企業で送風機的设计業務に携わっていた。そこでは、設計者は顧客が示す仕様値を数分間入力するだけで、自動的に羽根形状を含めた計画図、羽根座標、予想性能曲線が瞬時に出力された。しかも、予想性能曲線は正確に試験結果と合致していた。

それから、紆余曲折を経て数年後に弊社に入社し、送風機的设计業務に再び携わることになった。ここでは、顧客の示す仕様に対して過去実績を1週間かけて検討し、計画図、羽根座標、予想性能曲線を関係者で手間をかけて作成した。しかし、予想性能曲線は試験結果と合わず、何度も再試験が必要であった。この時点で感じたのは、優良大手企業との隔絶した設計環境の差に「ただ悲しい」だけであった。ここで何もしなければ弊社送風機事業は減びると考えた。「誰もやってはくれず自分でやっていくしか

ない。」という思いで送風機自動設計システムの開発に着手した。

それから、軸流ファンは8年、遠心ファンは10年の開発期間を経て、膨大な過去資料の調査、設計法の検討、システム構築を行った結果、2022年に両送風機の自動設計システムを完成させた。

### 3. システムの紹介

今回完成させた2つのシステムは、ともに優良大手企業での設計環境と同水準で素人がベテラン並に設計できるようにしている。このシステムは、高専または大学程度の流体力学、材料力学、機械振動学を履修していれば容易に操作できる。システムは、エクセルで作成している。システムの特徴を以下に示す。

図3に入力画面の例を示す。入力欄は黄色セルで、入力値が相応しくないと入力欄の右側に赤字で警告が出て修正を促すようにしている。また、計算結果の場合には相応しくない値だとセルが赤色になり、修正を促すようにしている。



図3 入力画面

以下図4に軸流ファンの動翼形状の出力画面の例を示す。これは、自動的に計算され、座標値出力はもちろんのこと、視覚的に確認しやすいようにしている。

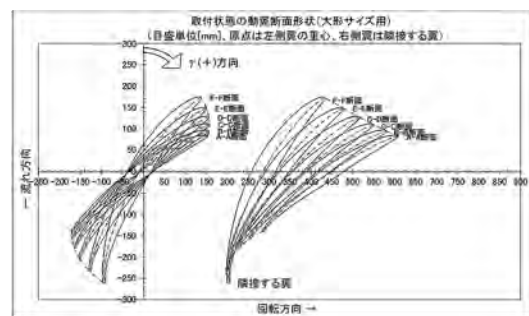


図4 動翼形状の出力画面（軸流ファン）

次ページの図5に遠心ファンの翼車・軸形状の出

力画面の例を、図6に遠心ファンの羽根形状の出力画面の例を示す。

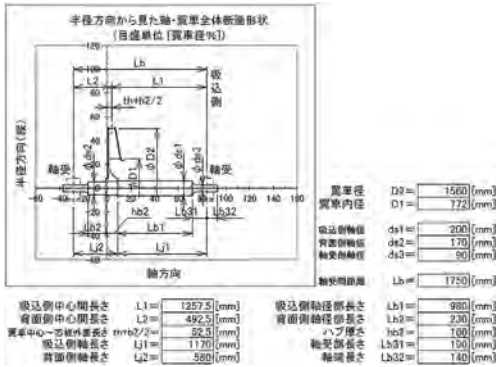


図5 翼車・軸形状の出力画面（遠心ファン）

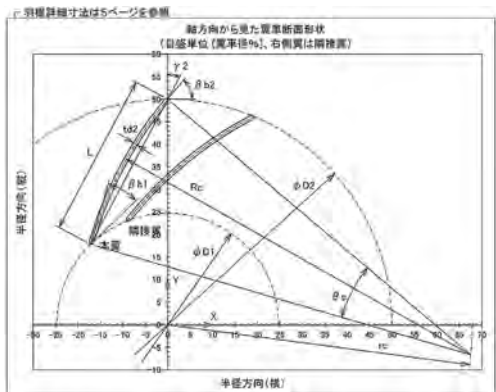


図6 羽根形状の出力画面（遠心ファン）

両方も自動的に計算され、形状と計算された寸法を視覚的に分かり易く配置している。

次に、図7に予想性能曲線の出力画面の例を示す。

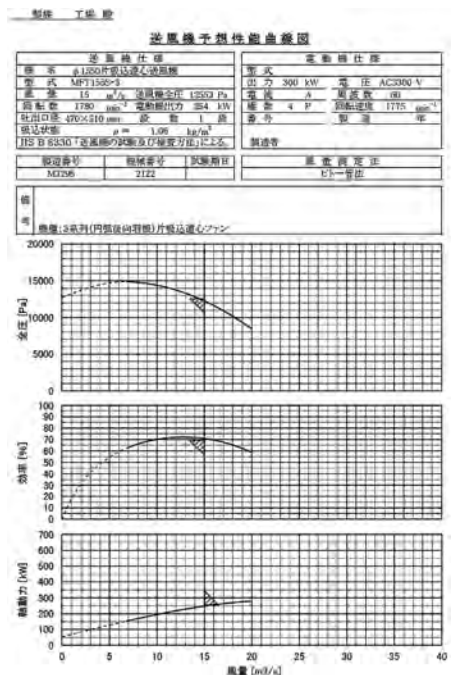


図7 予想性能曲線の出力画面

横軸に流量、縦軸に圧力、効率、軸動力の値を取る。これも自動的に計算される。

この他にも強度計算、軸流ファンでは静翼形状、遠心ファンではケーシング形状も自動設計される。これらのシステムの設計理論は、大変複雑で膨大なため本稿ではその説明を割愛する。

用途としては、軸流ファンは、トンネル換気、風洞実験設備、火力発電所の送排風等に、遠心ファンは、化学工場の送排風、地下鉄他閉所空間換気、CDQブロー等に適用可能と考えている。

#### 4. システム化の効果

本システムの開発で出来上がった自動設計システムは、「生産性改善」と「新商品開発」の2つの側面以下で以下の効果をもたらしている。

##### I. 生産性改善面の効果

- ① 素人でもストレスなくベテラン並みの品質水準で設計ができ、試験結果も予想性能曲線とほぼ一致して作り直しもない。
- ② 迅速に設計ができるので、工数低減、見積期間短縮、納期短縮の効果が大きい。
- ③ 設計者からみれば煩雑な設計作業の手間から解放されて余力が生まれるので、製品の付加価値を高めるための業務が可能になる。

##### II. 新商品開発面の効果

- ① サージング領域や回転時不釣合いでの異常振動等の不具合が設計段階でわかるため、未然に防止でき、従来にはない常に顧客満足度の高い商品供給が可能になる。
- ② 流量係数-圧力係数の分布で仕様の選択時に、従来実績の「点」から離れない領域からではなく、より広い「面」の領域から未経験の仕様が柔軟に選択できるため、顧客のニーズに寄り添えやすくなる。
- ③ 例えば遠心ファンでは片吸込タイプでの実績はあるが、従来機種にはなかった両吸込タイプの遠心ファンを選択できるようになり、用途範囲を上げることができる。

#### 5. おわりに

今回開発した送風機自動設計システムは、優良大手企業のレベルには及ばないものの、これのない企業にとっては、これを導入することで、設計環境と設計品質を統合した競争力を高めることができ、優良大手企業とほぼ対等に競争できるのではないかと考えている。

最後に、本システムの開発にご協力頂いた方々に深く感謝している。

所属：株式会社三井三池製作所  
(E-mail: yoshikai2019@gmail.com)

# 技術士全国大会

IPEJ ANNUAL CONFERENCE

第51回

熊本  
九州沖縄

KUMAMOTO  
CASTLE

火の国

-森の都-  
熊本市

水の国

ASO

SUZENJI

大会テーマ ▶▶ かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ  
集え～火の国・水の国～

会期

2025  
10/25<sub>土</sub>-10/28<sub>火</sub>

大会構成

DAY1

■関連行事 ■ウェルカムパーティ

DAY2

■第1～第4分科会  
■大会式典 ■分科会報告 ■記念講演  
■交流パーティ ■パートナーズツアー

DAY3/4

テクニカルツアー

日帰り / 一泊二日

会場

熊本城ホール

〒860-0805  
熊本中央区桜町3番40号

<https://www.kumamoto-jo-hall.jp>

ウェブサイト  
QRコード



10月25日 (土)	関連行事	委員会・部会による連絡会議・専門部会	熊本城ホール3F 会議室他
		ウェルカムパーティ	熊本城ホール3F
10月26日 (日)	第1分科会	防災 ー連携のチカラー 「経験を活かす・備える」	熊本城ホール3F 会議室
	第2分科会	青年 ーミライのチカラー 「ミライを支える技術者」	
	第3分科会	地域 ー高まるチカラー 「ハイテク産業の集積と地域の未来」	
	第4分科会	人材 ーはばたくチカラー 「人口減少社会における人材育成」	
		大会式典	
	分科会報告		
記念講演	九州大学名誉教授・熊本大学客員教授ー松田泰治氏ー 『2016年熊本地震の教訓に学ぶ～更なる創造的復興に向けて～』		
		交流パーティ	熊本城ホール3F
	パートナーズツアー	山鹿灯籠民芸館・八千代座ほか	県北コース
10月27日 (月)	テクニカルツアー A	益城町・南阿蘇村・熊本地震震災ミュージアムほか	日帰りコース
10月27日(月) 10月28日(火)	テクニカルツアー B	人吉・球磨 2020年九州豪雨災害遺構・人吉温泉ほか	1泊2日コース

※プログラム及びツアーの内容は都合により変更する可能性があります。

記念講演

CEREMONY

▶▶▶ 2016年熊本地震の教訓に学ぶ ～更なる創造的復興に向けて～

2016年熊本地震から得た教訓を振り返り、地域防災力向上に繋げるとともに、  
新たな社会経済動向を活かした更なる創造的復興に向けて、その課題や展望を探ります。

専門分野 : 地震工学・都市防災・リスクマネジメント

九州大学名誉教授・熊本大学客員教授  
TAJIMA ZDA 松田 泰治 氏



お問い合わせ

CONTACT

公益社団法人 日本技術士会九州本部 事務局 / 第51回技術士全国大会(熊本・九州沖縄)実行委員会  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目19番5号 博多石川ビル 6階D2号室  
TEL 092-432-4441 FAX 092-432-4443  
EMAIL pekyushu@nifty.com WEBSITE <https://www.pekyushu.com>



## おめでとうございます

2025年度会長表彰、九州本部長表彰を受賞されましたので、ご紹介いたします。

**会長表彰受賞**（35年以上の在会であって本会に貢献）

小川 康夫 氏（建設・福岡）

**会長表彰受賞**（地域本部・部会活動に貢献）

山口 昭光 氏（農業・長崎）

高山 祐二郎 氏（建設・熊本）

松永 榮八郎 氏（金属、機械・北九州）

**本部長表彰受賞**

石村 知子 氏（建設・福岡）

田口 宏之 氏（機械・北九州）

中田 敦也 氏（建設・福岡）

丸田 俊二 氏（森林・鹿児島）

山部 鉄朗 氏（森林・福岡）

## お知らせ

2025年3月末現在の九州本部会員数をお知らせします。

県別	会員種別		
	正会員	準会員	合計
福岡・北九州	679	91	770
佐賀	64	9	73
長崎	115	19	134
熊本	113	25	138
大分	135	15	150
宮崎	76	15	91
鹿児島	110	27	137
沖縄県	95	20	115
計	1,387	221	1,608

※九州本部正会員・準会員は、公益社団法人日本技術士会の会員

## ご案内

第29回西日本技術士研究業績発表年次大会が、2025年11月14日（金）、15日（土）に広島市文化交流会館で開催されます。オンラインでも参加可能です。（詳細は、日本技術士会 中国本部のHPをご覧ください）

お問合せ）公益社団法人 日本技術士会 中国本部（広島市中区鉄砲町1-20 第3ウエノヤビル6階）

TEL：082-511-0305 FAX：082-511-0309 E-mail：ipej-hiro@rapid.ocn.ne.jp

### 第29回 西日本技術士

## 研究・業績発表年次大会（広島）

### ■大会テーマ

科学・技術と社会の橋渡し ～技術士の活躍とこれからの役割～

### ■大会日程・行事予定

※ 会員以外の方も参加可能です。

日付	時間（予定）	集合・会場	行事内容（案）
11/14 （金）	受付：12:00 12:15 ～18:00	広島駅南口 エールエールA館 6階	●研修ツアー（定員50名） 広島駅南口再整備／つづくら館／アレイからすこしま／入船山記念館 13:00 広島駅新幹線口発 ⇒ 18:00 広島市文化交流会館着
	18:30 ～20:30	広島市 文化交流会館	●歓迎セッション（定員80名）…………… 1階レストラン ミニコンサート（技術士バンド演奏 など）
11/15 （土）	9:30 ～10:20	広島市 文化交流会館  オンライン 参加可能	●式典（定員200名）…………… 銀河（3F）
	10:30 ～12:00		●記念講演（定員200名）…………… 銀河（3F） 「科学・技術と社会の橋渡し・新たな「コトづくり」」(仮) 村松 秀 氏 …（近畿大学総合社会学部 総合社会学科 社会・マスメディア系専攻教授 前NHKディレクター）
	12:00 ～12:50		●昼 食 希望される方は、お弁当の申し込みをお願いします。
	12:50 ～16:10		●第1分科会（定員200名）…………… 銀河（3F） 「一般」30分×6編予定 ●第2分科会（定員100名）…………… ルミエール （2F） 「青年・男女」5地域本部の活動事例紹介、パネルディスカッション、 事例紹介ブースを設置、自由交流
	16:20 ～17:00		●大会講評・次回案内…………… 銀河（3F）

（日本技術士会 中国本部 HP より抜粋）



### 【記念講演】

科学・技術と社会  
の橋渡し・新たな  
「コトづくり」(仮)



近畿大学総合社会学部 総合社会学科 社会・マスメディア系専攻教授  
前NHKディレクター 村松 秀 氏

大会会場：広島市文化交流会館  
レセプション：広島市文化交流会館

11/14 研修ツアー : 3,000円/人  
歓迎セッション : 6,000円/人  
11/15 式典、記念講演、分科会 : 2,000円/人

# 会員ニュース

## 公益社団法人 日本技術士会(九州本部) 入会

〈令和7年5月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
佐賀 正会員	藤田 貴弘	機 械	日本タンクステン株式会社 電機部品製造本部電機製造技術部
福岡 正会員	今井 貴之	資源工学	日本磁力選鉱株式会社技術部
福岡 正会員	大下 義人	建 設	株式会社オリエンタルコンサル タツ九州支社道路部
福岡 正会員	海部 貴裕	建 設	日本工営株式会社福岡支店都 市交通部橋梁サブグループ
福岡 正会員	古賀 健太	建 設	株式会社オリエンタルコンサル タツ九州支社総合計画部
福岡 正会員	高峯 高	建 設	日本工営株式会社福岡支店技術 第一部都市地域整備グループ
福岡 正会員	長 省吾	建 設	株式会社フジタ九州支店土木 工事部
熊本 正会員	鶴丸 康二	建 設	日本工営株式会社福岡支店 交通都市部
沖縄 正会員	當間みこと	建 設	沖縄県生コンクリート工業組 合技術部
熊本 正会員	仲田裕一郎	建 設	株式会社大進コンサルタント 環 境 総合技術監理
熊本 正会員	中田 紘志	建 設	熊本市役所南区役所区民部
熊本 正会員	細川 直樹	建 設	農林水産省九州農政局八代平野 農 業 農業水利事業所 総合技術監理
熊本 正会員	松永 清文	建 設	日本地研株式会社熊本支店
大分 正会員	三崎 貴弘	建 設	大分大学減災・復興デザイン 教育研究センター
沖縄 正会員	宮下 草伸	建 設	沖縄県土木建築部 総合技術監理
福岡 正会員	安岡 大輔	建 設	大豊建設株式会社九州支店 土木営業部
福岡 正会員	山田 卓	建 設	日本工営株式会社福岡支店 基盤技術部
福岡 正会員	若本 晃一	建 設	北九州市都市整備局河川公園部
沖縄 正会員	照屋 了平	上下水道	合同会社来渡設計設計部
宮崎 正会員	山田 卓	上下水道	株式会社アクアテックコンサル タツ
佐賀 正会員	大坪 計太	衛生工学	株式会社九電工人事務部 九電アカデミー
福岡 正会員	石津 誠司	農 業	株式会社ARIAKE福岡営業所
佐賀 正会員	石橋佳代子	農 業	佐賀県土地改良事業団体連合 会事業部
熊本 正会員	岡林 勇航	農 業	株式会社地域計画連合
鹿児島 正会員	平 哲人	農 業	株式会社コバルト技建技術部 総合技術監理
鹿児島 正会員	齋藤 昌彦	森 林	一般社団法人鹿児島県治山林 道協会治山林道第2グループ
福岡 正会員	黒澤 範一	応用理学	日本工営株式会社福岡支店基盤 総合技術監理 技術部
福岡 正会員	畚野 匡	応用理学	日本工営株式会社福岡支店基盤 技術部

福岡 準会員	澁田 直行	電気電子	日本通信エンジニアリング サービス株式会社福岡センター
福岡 準会員	白水 芳雄	電気電子	株式会社白水電気管理事務所 総務部
大分 準会員	横山祐太郎	電気電子	住友化学株式会社工務部

〈令和7年6月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	城戸 真樹	電気電子	西部電気工業株式会社 ソリューション企画部
熊本 正会員	堀 昭博	資源工学	伊藤忠鉱物資源開発株式会社 技術部
福岡 正会員	井之本 信	建 設	アジア航測株式会社九州国土 保全コンサルタント技術部
福岡 正会員	牛谷 逸朗	建 設	貴建設株式会社本社設計 総合技術監理 コンサルタント部
福岡 正会員	角田 政毅	建 設	日本工営株式会社福岡支店 交通都市部
福岡 正会員	高橋 達也	建 設	麻生セメント株式会社セメン ト品質グループマネージャー
熊本 正会員	餅井 忠大	建 設	西松建設九州支社
大分 正会員	益田 晴也	森 林	協同エンジニアリング株式会社 技術第一部森林治山グループ
大分 準会員	平川 孝則	機 械	ENEOS株式会社大分製油所 工務グループ

〈令和7年7月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	松瀬 裕大	機 械	松瀬技術七事務所
福岡 正会員	遠藤 侑輝	建 設	日本工営都市空間株式会社 九州支店社会基盤部
沖縄 正会員	志良堂貴紘	建 設	沖縄県土木建築部
福岡 正会員	高野 陽平	建 設	株式会社オリエンタルコンサル タツ九州支社道路部
福岡 正会員	塚本 祐嗣	建 設	北九州市役所都市整備局東部
福岡 正会員	堤 舞香	建 設	日本工営都市空間株式会社 九州支店都市開発部
福岡 正会員	徳永 博	建 設	日本工営株式会社基盤技術本部
鹿児島 正会員	松葉 洋介	建 設	九州電力株式会社鹿児島支店 技術部土木建築グループ
熊本 正会員	本田 元信	農 業	環境省九州地方環境事務所 総合技術監理
宮崎 準会員	緒方 祐樹	機 械	都城市役所

## 協 賛 団 体 会 員

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <p>.....[福 岡].....</p> <p>(株)エム・ケー・コンサルタント<br/>         (株)カミナガ<br/>         (株)建設環境研究所九州支社<br/>         (株)建設技術研究所九州支社<br/>         (株)久栄総合コンサルタント<br/>         産業開発コンサルタント(株)<br/>         (株)サンコンサル<br/>         ジーアンドエスエンジニアリング株式会社<br/>         第一総合技術(株)<br/>         第一復建(株)<br/>         大成ジオテック(株)<br/>         大和コンサル(株)<br/>         (株)高崎総合コンサルタント<br/>         (株)テクノ<br/>         西鉄シー・イー・コンサルタント(株)<br/>         西日本技術開発(株)<br/>         西日本コントラクト(株)<br/>         (株)西日本測量設計<br/>         日鉄鉱山コンサルタント(株)九州本社<br/>         日本工営(株)福岡支店<br/>         日本地研(株)<br/>         富洋設計(株)九州支社<br/>         平和測量設計(株)<br/>         (株)唯設計事務所</p> | <p>.....[北九州].....</p> <p>(株)永大開発コンサルタント<br/>         (株)松尾設計<br/>         .....[佐 賀].....</p> <p>朝日テクノ株式会社<br/>         (株)エスジー技術コンサルタント<br/>         九州技術開発(株)<br/>         (株)九州構造設計<br/>         (株)コスモエンジニアリング<br/>         新栄地研(株)<br/>         (株)親和コンサルタント<br/>         精工C&amp;C(株)<br/>         (株)トップコンサルタント<br/>         西日本総合コンサルタント(株)<br/>         日本建設技術(株)<br/>         シマウチエンジニアリング(株)<br/>         .....[長 崎].....</p> <p>扇精光コンサルタンツ(株)<br/>         (株)実光測量設計<br/>         大栄開発(株)<br/>         大洋技研(株)<br/>         .....[熊 本].....</p> <p>旭測量設計(株)<br/>         (株)ARIAKE<br/>         (株)九州開発エンジニアリング<br/>         (株)熊本建設コンサルタント<br/>         (株)建設サポートセンター<br/>         (株)興和測量設計<br/>         (株)ヒライ・コンサルタント<br/>         (株)水野建設コンサルタント</p> | <p>.....[大 分].....</p> <p>九建設(株)<br/>         協同エンジニアリング(株)<br/>         ダイエーコンサルタント(株)<br/>         東洋技術(株)<br/>         東洋測量設計(株)<br/>         西日本コンサルタント(株)<br/>         (株)日建コンサルタント<br/>         日進コンサルタント(株)<br/>         松本技術コンサルタント(株)<br/>         .....[宮 崎].....</p> <p>(株)アップス<br/>         九州工営(株)<br/>         (株)ケイディエム<br/>         (株)国土開発コンサルタント<br/>         (株)白浜測量設計<br/>         南興測量設計(株)<br/>         (株)西田技術開発コンサルタント<br/>         (株)東九州コンサルタント<br/>         (株)都城技建コンサルタント<br/>         .....[鹿 児 島].....</p> <p>(株)久永コンサルタント<br/>         (株)南日本技術コンサルタンツ<br/>         (株)アジア技術コンサルタンツ<br/>         大福コンサルタント(株)</p> |
|---|--|--|

**次 回 の 予 告**  
 (第146号 令和8年1月)

○第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）

### 編 集 後 記

今期より、九州本部広報委員会の委員長を拝命いたしました倉成と申します。どうぞよろしくお願いいたします。技術士会の中では少数派となる情報工学部門の技術士ではありますが、情報技術は社会のあらゆる分野と密接に関わっています。その知見を活かし、技術士の価値をより広く、そして深く伝えてまいりたいと考えております。

さて、いよいよ第51回技術士全国大会 熊本・九州沖縄が2025年10月25日(土)から28日(火)にかけて熊本で開催されます。全国の仲間をお迎えする準備も、いままさに佳境を迎えています。コロナ禍を経て、リモートで多くのことが可能となりましたが、やはり顔を合わせて議論を交わす場には、独自の熱量があります。熊本の地で皆様と議論を交わし、社会課題の解決に向けて技術士としての使命を再確認する機会となることを願っています。

(倉成)

#### 編 集 : 広 報 委 員

- |   |              |
|---|--------------|
| 【福 岡】 久保川孝俊、棚町 修一、西尾 行生<br>原田 正則、松田 敦、倉成 真一 | 【佐 賀】 合志 勉   |
| 【北九州】 宮崎 照美                                 | 【大 分】 竹内 一博  |
| 【長 崎】 清水 正明                                 | 【宮 崎】 神田 稔弘  |
| 【熊 本】 沼地 英二                                 | 【鹿 児 島】 高畦 博 |

発 行：公益社団法人 日本技術士会九州本部  
 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-19-5  
 (博多石川ビル6階D2号室)  
 九州本部： ☎(092)432-4441  
 FAX(092)432-4443  
 E-mail:pekyushu@nifty.com  
 九州本部ホームページURL：  
<http://www.pekyushu.com/>  
 印 刷：株式会社チューエツ